

授業科目名	心理学方法論I
科目番号	OATB011
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 火1,2
担当教員	濱口 佳和
授業概要	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。 研究者としての研究倫理、人を対象とする研究における研究倫理の重要性をふくめた講義を行う。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	●汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネジメント力 3. コミュニケーション能力 4. チームワーク力 ●専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	研究公正についての理解を基に、人間系研究倫理審査申請書の書き方を説明し、実行できるようになる。心理学の文献研究の仕方やデータの収集・分析・表記の仕方を理解し、説明できるようになる。特に、システムティック・レビュー、面接法、M-GTA、行動観察、縦断的研究デザイン、構造方程式モデリング、統計的分析結果の新しい表記法について、重要な点を理解し、説明し、自分自身が行う研究にどのように適用するかを検討できるようになる。
授業計画	主に心理学の基礎的方法論を取り上げて検討する 第1回 4月15日(火) ガイダンス(学位Pリーダー), 研究倫理教育, Infoss情報倫理, e-APRINの概説と受講案内(特任助教) 第2回 4月22日(火) 心理臨床における実践的仮説生成研究法 (濱口) 第3回 5月7日(水) 青年心理学研究の方法論ー青年心理学的な研究とは何か, 青年心理学研究の具体例(佐藤) 第4回 5月13日(火) 研究倫理申請書の書き方 Infoss & CITI-Japan受講確認 (研究倫理委員:千島) 第5回 5月20日(火) 面接法によるデータ収集と分析(松田侑子) 5月21日 修士論文第1次指導会 第6回 5月27日(火) 新しい統計結果の表記方法 (藤田) 第7回 6月3日(火) 縦断データの収集と分析(千島・生田目) 第8回 6月10日(火) 構造方程式モデリングの基礎(山口) 第9回 6月17日(火) システムティック・レビュー(菅原) 第10回 6月24日(火) 行動観察によるコミュニケーションの定量化とプロセス研究(中島) * 5月7日(水)は火曜授業の日です。 修士論文第1次指導会は必ず出席すること。欠席や途中参加・途中退室の場合は応分のレポートを課す。 * manabaの自己登録キーは「4582188」です。TWINSに科目履修登録すると自動的にmanabaに登録されますが、履修登録完了前にmanabaコンテンツの閲覧の必要がある場合、各自で自己登録してください。

授業計画	* 各回の資料は,manabaのコンテンツにアップロードするので各自でダウンロードして使用してください。紙媒体での提供は行いません。1週間の閲覧期間を確保します。 * 各回の出席はmanabaのResponを使用して把握します。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	開講されたすべての授業時間数(休講となった時間数は除く)の60%以上の出席が必須。出席率が60%未満の者は単位を取得できない。 この科目の評価は各回の到達度確認テストの総合点に基づいて行う(100%)。 成績評価基準は下記のとおりである。 A+:到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A:到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない 確認テストについて,達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(100%) 各回の講義で紹介される関連する研究論文・書籍などをよく読んで学びを深めてください。 大学設置基準により、2単位分の科目の修学には、授業時間を含め、90時間の学修が求められています。
教材・参考文献・配付資料等	各回,資料を配布し,それに沿って進める。指定する教科書はない。
オフィスアワー等(連絡先含む)	教員により異なる
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任を もって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TA:心理学学位プログラム(後期) 費思怡 s2430329@u.tsukuba.ac.jp
キーワード	研究倫理 仮説生成研究法 面接法 行動観察 青年心理学研究法 心理統計 縦断データ 構造方程式モデリング システマティック・レビュー

授業科目名	心理学方法論Ⅱ
科目番号	OATB012
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋AB 火1,2
担当教員	濱口 佳和
授業概要	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。 この講義の一環として修士論文の中間発表会、最終口答試問の聴講も行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	●汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネジメント力 3. コミュニケーション能力 4. チームワーク力 ●専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	心理尺度の構成法について理解し、説明できるようになる。さらに臨床心理学、応用行動分析学、社会心理学、認知心理学の各分野における近年の研究方法について理解し、説明ができるようになる。また、心理学の隣接科学であるニューロサイエンスの研究手法や人間行動に対する神経学的要因や遺伝的要因の働きを理解し、説明できるようになる。
授業計画	第1回 10月7日(火) 心理尺度の作成(外山) 第2回 10月14日(火) 単一事例研究計画法・生理計測・行動計測(松田壮一郎) 10月 15日(水) 修士論文第2次指導会 第3回 10月21日(火) ICTを用いた心理学研究法(提示刺激制御、映像解析)(大山) 第4回 10月28日(火) 心理学における「臨床」の研究-EBMと臨床試験-(浅野) 第5回 11月5日(水) JavaScriptを用いた画像呈示や実験プログラムの作成(前澤) 第6回 11月11日(火) 社会心理学の実験法(川上) 第7回 11月 18日(火) 心の健康教育のプログラム開発と効果検証の方法(生田目) 第8回 12月2日(火) 脳神経科学と薬理に関する研究法(山田一夫) オンデマンド方式 第9回 12月9日(火) ニューロイメージング計測法の原理(綾部早穂) オンデマンド 第10回 12月16(火) 遺伝とホルモンに関する研究法(高橋阿貴) オンデマンド方式 1月21日(水) 修士論文最終審査会 * 11月5日(水) は火曜授業の日、11月4日(火)は授業なし、11月25日(火)は月曜授業の日 修士論文第2次指導会と最終審査会は必ず出席すること。欠席や途中参加・途中退室の場合は応分のレポートを課す。 * manabaの自己登録キーは「3508171」です。TWINSで科目理輔登録をすれば自動的にmanabaに登録されますが、科目履修登録以前に必要な場合は自己登録をしてください。 * 各回の資料は、manabaのコンテンツにアップロードするので各自でダウンロードして使用してください。紙媒体での提供は行いません。1週間の閲覧期間を確保します。 * 各回の出席はmanabaのResponを使用して把握します。
履修条件	原則的に心理学学位プログラムの正規生であること

成績評価方法	開講されたすべての授業時間数(休講となった時間数は除く)の60%以上の出席が必須。出席率が60%未満の者は単位を取得できない。 この科目の評価は各回の到達度確認テストの総合点に基づいて行う(100%)。成績評価基準は下記のとおりである。 A+: 到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A: 到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B: 到達目標を達成している C: 到達目標を最低限達成している D: 到達目標を達成していない 確認テストについて、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(100%) 各回の講義で紹介される関連論文や書籍をよく読んで理解を深めること 2単位の授業科目は、講義時間を含め90時間の学修を必要としています。
教材・参考文献・配付資料等	各回, 資料を配布し, それに沿って進める。指定する教科書はない。
オフィスアワー等(連絡先含む)	教員によって異なる
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任を もって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TA: 心理学学位プログラム(後期) 費思怡 s2430329@u.tsukuba.ac.jp
キーワード	心理尺度 単一事例実験計画法 ICT 臨床試験 JavaScript 対人関係 こころの健康教育 認知行動療法 脳神経科学 ニューロイメージング 遺伝

授業科目名	心理学特別研究A
科目番号	OATB021
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春ABC 随時
担当教員	濱口 佳和
授業概要	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。 論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目春学期に実施する。5月に実施される修士論文構想発表の事前事後指導を中心に指導を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標（学修成果）	1.各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げることができる 2.綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用し、的確なデータの収集と分析を行うことができる 3.得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる
授業計画	詳細は指導教員によって異なるが、標準的には下記の内容から構成される 第1回 研究テーマの選定 第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読 第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索 第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー 第5回 システムティックレビューの中間報告 第6回 システムティックレビューの結果報告 第7回 研究目的の絞り込み 第8回 全体的な研究計画の立案 第9回 仮説の導出 第10回 データ収集の方法の検討 上記に加え、随時、修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる 対面（オンライン併用型）
履修条件	心理学学位プログラム正規生で今年度修士論文提出予定の者
成績評価方法	遂行中の修士論文の研究の進捗状況について以下の観点から評価する 1.テーマ設定の学術的・社会的意義 2.研究テーマ・研究目的設定の明確さ 3.研究テーマ・研究目的の独自性 4.理論的検討、先行研究のレビューの網羅性 5.研究計画全体のまとまり 6.研究方法の適合性など 上記の観点を踏まえ、学期末における修士論文の研究の状態について、A+、A、B、C、Dの5段階で評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である A：到達目標を達成し、優秀である

成績評価方法	B：到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D：到達目標を達成していない
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	特に決まったものは使用しない
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員のオフィスアワーに対応する
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成

授業科目名	心理学特別研究B
科目番号	OATB022
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋ABC 随時
担当教員	濱口 佳和
授業概要	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。 博士前期課程1年目秋学期に実施する。修士論文の提出まで、ならびに最終口答試問のための指導を中心に行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標（学修成果）	1. 各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げることができる 2. 綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用して的確なデータの収集と分析を行うことができる 3. 得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる
授業計画	特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り ただし、詳細は指導教員によって異なるが、標準的には下記の内容から構成される 第1回 研究テーマの選定 第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読 第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索 第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー 第5回 システムティックレビューの中間報告 第6回 システムティックレビューの結果報告 第7回 研究目的の絞り込み 第8回 全体的な研究計画の立案 第9回 仮説の導出 第10回 データ収集の方法の検討 上記に加え、随時、第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる 秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象 各教員がそれぞれの指導学生に個別に示すが標準的に以下の内容が含まれる 第1回 研究方法の検討 第2回 データ収集の準備 第3回 データ収集過程のモニター 第4回 データのコーディング、入力 第5回 データ分析方法の検討 第6回 データ分析の実際の指導 第7回 データ分析結果の解釈 第8回 分析結果のまとめ方の指導

授業計画	第9回 結果についての考察の指導 第10回 論文全体のチェック 上記に加え、修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う 対面（オンライン併用型）
履修条件	心理学学位プログラム正規生で今年度修士論文提出予定の者
成績評価方法	第1回 研究方法の検討 第2回 データ収集の準備 第3回 データ収集過程のモニター 第4回 データのコーディング，入力 第5回 データ分析方法の検討 第6回 データ分析の実際の指導 第7回 データ分析結果の解釈 第8回 分析結果のまとめ方の指導 第9回 結果についての考察の指導 第10回 論文全体のチェック 上記に加え、修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う 上記をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である A：到達目標を達成し、優秀である B：到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D：到達目標を達成していない
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 修士論文第2次指導会と最終口述試験および、随時、各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
教材・参考文献・配付資料等	特に決まったものは使用しない
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成
-------	---

授業科目名	心理学特別研究S
科目番号	OATB023
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 応談
担当教員	濱口 佳和
授業概要	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。留学、休学などの個人的事情により、心理学特別研究AないしBが履修できない学生について、博士前期課程2年目以後に心理学特別研究AないしBの代替科目として特に学位プログラム教育会議から許可を得た者を対象として実施する。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標(学修成果)	1.各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし,その上で未解決の問題を取り上げることができる 2.綿密な研究計画を立案し,習得した心理学的方法論を使用して的確なデータの収集と分析を行うことができる 3.得られた研究成果を実証的な研究としてまとめることができる
授業計画	特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り 第1回 研究テーマの選定 第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読 第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索 第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー 第5回 システムティックレビューの中間報告 第6回 システムティックレビューの結果報告 第7回 研究目的の絞り込み 第8回 全体的な研究計画の立案 第9回 仮説の導出 第10回 データ収集の方法の検討 上記に加え,随時,第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる 秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象 各教員がそれぞれの指導学生に個別に示すが標準的に以下の内容が含まれる 第1回 研究方法の検討 第2回 データ収集の準備 第3回 データ収集過程のモニター 第4回 データのコーディング,入力 第5回 データ分析方法の検討 第6回 データ分析の実際の指導 第7回 データ分析結果の解釈 第8回 分析結果のまとめ方の指導

授業計画	第9回 結果についての考察の指導 第10回 論文全体のチェック 上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う
履修条件	特別の事情・目的がある場合に、学位プログラムリーダーの承認を得て、心理学特別研究A,心理学特別研究Bに代えて履修する
成績評価方法	特別研究Aを春学期に受講できなかった者に対しては下記の通り 第1回 研究テーマの選定 第2回 研究テーマに関連する心理学の専門書の精読 第3回 研究テーマに関連する先行研究の文献検索 第4回 研究テーマに関連する論文のシステムティックレビュー 第5回 システムティックレビューの中間報告 第6回 システムティックレビューの結果報告 第7回 研究目的の絞り込み 第8回 全体的な研究計画の立案 第9回 仮説の導出 第10回 データ収集の方法の検討 上記に加え，随時，第修士論文1次指導会のプレゼンテーションについての指導が加わる 以上をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である A：到達目標を達成し、優秀である B：到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D：到達目標を達成していない 秋ABに特別研究Bを履修できなかった人対象 第1回 研究方法の検討 第2回 データ収集の準備 第3回 データ収集過程のモニター 第4回 データのコーディング，入力 第5回 データ分析方法の検討 第6回 データ分析の実際の指導 第7回 データ分析結果の解釈 第8回 分析結果のまとめ方の指導 第9回 結果についての考察の指導 第10回 論文全体のチェック 上記に加え，修士論文第2次指導会と最終口述試験のプレゼンテーション・質疑応答の指導を随時行う 以上をすべて行ったうえで、学期末における修士論文の研究の状態について、A+，A，B，C，Dの5段階で評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀である A：到達目標を達成し、優秀である B：到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している

成績評価方法	D：到達目標を達成していない
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
教材・参考文献・配付資料等	特に決まったものは使用しない。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	修士論文 研究テーマの設定 研究計画の立案 研究計画の実行 データ収集・分析 論文作成

授業科目名	心理学先端研究1
科目番号	OATB031
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	村上 達也, 外山 美樹, 千島 雄太
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。
備考	西暦偶数年度開講。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 汎用コンピテンス 知の活用力, 国際性 2. 専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力
授業の到達目標（学修成果）	1. 認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 主要な理論と方法論, 並びに実証された知見を説明できるようになる。 2. 上記1によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。
授業計画	特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、5コマから成る講義と討論を行い 2日間、10コマ（1コマ75分）の授業計画である。 1日目 5コマに渡り、特定トピックについての方法論、概念、理論、実証的研究、支持された仮説などについての講義と質疑応答を行う 2日目 講師の与えた課題に取り組み、学びをさらに進化させて課題を提出する。 最後は課題に対して担当教員からのコメントを受け取る。 第1回：最新の心理学研究に関する基礎研究の紹介 第2回：最新の心理学研究に関する応用研究の紹介 第3回：最新の心理学研究に関する論文購読 第4回：最新の心理学研究に関するディスカッション 第5回：最新の心理学研究に関する研究のまとめ
履修条件	
成績評価方法	レポート（100%）
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師が指定した教科書や論文に事前に読んでおくこと 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 レポートの評価について、manaba等でフィードバックを行う。
教材・参考文献・配付資料等	各講師が指定した教科書や論文を参照すること
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	講義内容の詳細については，世話人の教員などに確認してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学，社会心理学、発達心理学、臨床心理学、方法論、理論、エビデンス

授業科目名	心理学先端研究2
科目番号	OATB032
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	松田 侑子, 菅原 大地
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。 主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、現在の研究展開の在り方に関する世界的動向を、講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。
備考	西暦奇数年度開講。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 汎用コンピテンス 知の活用力, 国際性 2. 専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力
授業の到達目標（学修成果）	1. 認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 主要な理論と方法論、並びに実証された知見を説明できるようになる。 2. 上記1によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。
授業計画	特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、5コマから成る講義と討論を行い 2日間、10コマ（1コマ75分）の授業計画である。 1日目 5コマに渡り、特定トピックについての方法論、概念、理論、実証的研究、支持された仮説などについての講義と質疑応答を行う 2日目 講師の与えた課題に取り組み、学びをさらに進化させて課題を提出する。 最後は課題に対して担当教員からのコメント（フィードバック）を受け取る。 第1回：最新の心理学研究に関する基礎研究の紹介 第2回：最新の心理学研究に関する応用研究の紹介 第3回：最新の心理学研究に関する論文購読 第4回：最新の心理学研究に関するディスカッション 第5回：最新の心理学研究に関する研究のまとめとフィードバック
履修条件	
成績評価方法	レポート（100%） レポート課題については、その場、あるいは翌週以降、講評を manabat 等にアップロードしてアナウンスする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師から指定した教科書や論文に事前に読んでおくこと 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	各講師が指定した教科書や論文を参照すること
オフィスアワー等（連絡先含む）	各回の世話人に連絡をしてください 松田 侑子

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学。社会心理学、発達心理学、臨床心理学、方法論、理論、エビデンス

授業科目名	心理学キャリア形成
科目番号	OATB041
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	
授業概要	心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解をし、主体的に考えることを目的とした高度専門職行事のためのキャリア育成科目である、国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職として最先端で活躍する講師を招き、その講義を聴き議論をすることにより、将来の進路決定に役立てると共に、心理学という研究領域とその社会との関連性についての考察を深める。
備考	今年度開講せず 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力 マネージメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション能力
授業の到達目標（学修成果）	心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解し、自らのキャリア形成について主体的に考えることができる。
授業計画	（2023.2.24）本科目は外部講師による集中授業であり、詳細については決定次第、加筆・修正を行う。 第1回 心理学の学びとキャリア形成 第2回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー仕事紹介ー 第3回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー必要とされるコンピテンスー 第4回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー大学院在学中にやっておきたいことー 第5回 心理学基礎系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ーその職業の将来展望 第6回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー仕事紹介ー 第7回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー必要とされるコンピテンスー 第8回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ー大学院在学中にやっておきたいことー 第9回 心理臨床系分野の学修を活かしたキャリアの具体例ーその職業の将来展望 第10回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	受講生の発言，討論への参加の積極性（60%）、講師の課したレポート（40%）による評価。評価基準はこの授業の目標への到達度により、以下の5段階により評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A：到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B：到達目標を達成している C：到達目標を最低限達成している D：到達目標を達成していない

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	取り上げられた職業についてさらに詳しく調べること。その職業に就くために必要な資格があれば、その資格について調べること。 自分のキャリアの一環としてその職業に就くことについて考えること。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 提出されたレポートについて、達成度評価を基にフィードバックを行う。
教材・参考文献・配付資料等	特になし
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは特に定めないが、世話人教員へメールで連絡して調整すること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	履修に関する掲示・連絡に注意すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	心理学，職業，キャリア形成

授業科目名	心理学インターンシップ
科目番号	OATB042
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	通年 応談
担当教員	濱口 佳和
授業概要	心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。 国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図る。同時に、将来の進路決定に役立つ体験としても位置づける。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	1.民間企業・団体・地方自治体などで行われる就労体験を、理学の学修・研究の一環として位置づけることができる。 2.受講生が自らのキャリアを具体的に考えられるようになる 3.心理学と社会の関係性について自ら主体的に学ぶ姿勢が身につく
授業計画	インターンシップゆえに、以下の手続きに則って手続きを行い、インターンシップに参加し、レポートとその評価をもって単位としてみなす。 1.参加するインターンシップに関する情報を収集する。 2.事前指導:インターンシップの内容について、指導教員に説明し、指導教員との討論を経て、各受講生の心理学研究との関係を明確化する。 3.「心理学インターンシップ」の要件を満たすことの承認を指導教員から得る。 4.日程、場所、活動内容についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式を心理学学位プログラム事務室(心理・心理学専攻事務室)に提出。 5.心理学学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議で「心理学インターンシップ」としての要件を満たすことの承認を得る。 6.「心理学インターンシップ」の科目履修登録を行う。 7.インターンシップに参加する。 8.実習報告書を指導教員に提出(実習先からの活動証明又は評価書を添付)。 9.事後指導:報告書に基づいて、インターンシップでの経験が受講生の心理学研究・学修にとってどのような意義があったかについて討論し、明確化する。 10.指導教員は心理学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議において単位認定の承認を得て、評価する。
履修条件	1.本科目で対象となるインターンシップは、概ね 1 週間(4ないし 5 営業日)以上の活動への参加を必要とするものであり、その内容が、心理学と関係性が強く、その教育・研究上の効果、有効性が、指導教員によって認められていることを前提とする。 また、受講生が自らインターンシップ参加の手続きを取り、実習機関から認められていることを前提とする。 2.科目履修を希望する者は、自分自身が参加するインターンシップに関する情報をあらかじめ指導教員を通じて申請し、専攻教育会議において「授業対象」としてのインターンシップとなるか否かについての承認を得ること。

履修条件	その際、インターンシップに参加する日程、場所、活動内容 についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式などを添付して提出すること。提出には、指導教員による承認を必要とする。 これらの提出された情報を元に、専攻教育会議において「心理学インターンシップ」としての 教育上の利点が十分に得られると考えられる場合に履修が認められる。
成績評価方法	受講生は、インターンシップ終了後にインターンシップ実習報告書を指導教員に提出し、その承認を得て科目担当者(学位プログラムリーダー)が単位を認定する。 報告書には、インターンシップ実習での 活動内容、ならびに、その心理専攻における教育との関連性について概要をまとめる。 可能であれば、実習先機関からの活動証明あるいは評価書を添えて提出する。成績の評価は活動に関する報告書（レポート）と実習先機関による評価書により評価する。成績に反映させる比率は1：1。インターンの内容やレポートについてフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講生自身が見出したインターンシップの実習に基づき、指導教員からの事前・事後 指導の中で、各受講生にとっての心理学の研究と関係付けていくこと1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	特に使用しない
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	自分自身の心理学研究・学修の目的に合致したインターンシップに主体的に参加する。教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。 生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	民間企業、団体、地方自治体 実地の就労体験 キャリア形成

授業科目名	心理基礎科学演習Ⅰ
科目番号	OATB051
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 水3,4
担当教員	佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目春学期に実施するため、特に研究計画を立て、実施の準備を行っていくまでを中心に指導を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力
授業の到達目標（学修成果）	専攻する研究領域の修士論文作成に関して、テーマ決定、研究方法、論文作成に必要な情報の収集法、論文の批判的読解法を修得する。
授業計画	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマに即して指導を行う。
履修条件	心理学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	各専門領域の教員が、各学生の研究への取り組みの状態に応じて評価する。（100%）各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマやそれに関連するテーマを扱っている先行研究、研究論文を検索し、講読する。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学

授業科目名	心理基礎科学演習Ⅱ
科目番号	OATB052
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋AB 水3,4
担当教員	佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目秋学期に実施するため、特に自らの研究計画に基づきながら、研究導入とその際に必要な技能・知識の獲得方法を中心に指導を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力
授業の到達目標（学修成果）	専攻する研究領域の修士論文作成に関して、テーマ決定、研究方法、論文作成に必要な情報の収集法、論文の批判的読解法を修得する。
授業計画	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマを発展させるよう指導を行う。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	各専門領域の教員が、各学生の研究への取り組みの状態に応じて評価する。（100%）各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマやそれに関連するテーマを扱っている先行研究、研究論文を検索し、講読しておく。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年

キーワード	心理学 対人心理学
-------	-----------

授業科目名	心理基礎科学演習III
科目番号	OATB053
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB 水3,4
担当教員	佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目春学期に実施するため、特に実際の研究を実施していきながら、その方法論や分析を自らモニターしていく方法とその際に必要とされる知識・技能の獲得の方法を中心に指導を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力
授業の到達目標（学修成果）	自らの修士論文作成に関して、研究テーマの意義を深め、研究テーマを研究する具体的な方法論について修得する。
授業計画	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマを発展させ、深化させるよう指導を行う。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマへの取り組みの状態に応じて評価する。（100%）
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに即した研究計画を立て、研究計画に則ったデータの収集を繰り返す行う。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
教材・参考文献・配付資料等	指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学
-------	--

授業科目名	心理基礎科学演習Ⅳ
科目番号	OATB054
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 水3,4
担当教員	佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目秋学期に実施するため、特に研究計画に基づきながら、実施した研究成果をどのように整理をし、一つの論文としてまとめ上げていくかについて、具体的な指導を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. チームワーク力
授業の到達目標（学修成果）	自らの研究テーマを実証する方法論に即して収集したデータの分析を進め、研究テーマを実証する論拠を組み立てて、それらを修士論文としてまとめ上げる。
授業計画	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマをデータに基づいて実証できるよう指導を行う。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	各専門領域の教員が、各学生の研究テーマへの取り組みの状態に応じて評価する。（100%） 各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマの実証に向けて、自ら収集したデータの解析を行い、研究テーマを実証する論拠を組み立てて、修士論文として文章化する。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	指導教員に、自らの研究の進行状況を説明するための資料を作成する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは各教員によって異なるので、教員と連絡を取り合うこと。 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	仮説生成 心理統計学 教育測定学 実験計画法 質問紙調査法 認知工学 言語心理学 青年心理学 対人心理学

授業科目名	心理統計学基礎
科目番号	OATB060
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 金7,8
担当教員	藤 桂
授業概要	社会科学における統計学の用い方の基礎を解説する。本講義は、「社会調査法」「データ解析法」履修のための基本要件である。
備考	OATD321と同一。 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・ 知の活用力 ・ マネージメント能力 ・ コミュニケーション能力 ・ チームワーク力 ・ 国際性 ・ 研究力 ・ 専門知識
授業の到達目標（学修成果）	質問紙や実験等で得られた数量データを統計的に解析する方法を学ぶことで、第一に、修士論文作成に備える。第二に課程修了後の実務でも広く役立つ統計的な知識やデータの見方を身に付ける。
授業計画	第1回 イン트로ダクション:統計の目的と意義,平均値と分散 第2回 正規分布とは 第3回 中心極限定理 第4回 統計的仮説検定の論理 第5回 t検定 第6回 分散分析 第7回 相関分析 第8回 重回帰分析: 第9回 因子分析 第10回 全体のまとめとふりかえり
履修条件	特になし。
成績評価方法	講義中に課す課題の内容（50％）と講義中の発表・討論の内容（50％）に基づいて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+～Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。また、フィードバックに関しては、manabaを用いて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義中に配布された講義資料を用いての復習，第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。 その他，必要に応じて講義中に示す。
教材・参考文献・配付資料等	基本的に、授業中に配布する資料のみを用いますが、下記参考図書も手元にあると便利かと思われます。 1. 鵜沼秀行・長谷川桐、『はじめての心理統計法』 東京図書
オフィスアワー等（連絡先含む）	担当教員の連絡先は以下のとおり。 訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。 k-fuji-3 at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	・いずれもオンラインで開講しますが、些細なことでも構いませんので、積極的な発言

むことや受講上の注意 点等)	や質問をお願いいたします。 ・教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	OATD322 社会調査法 OATD323 データ解析法
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。
キーワード	心理統計，t検定，分散分析，相関，重回帰分析，因子分析

授業科目名	心理基礎科学英語1
科目番号	OATB061
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春学期 随時
担当教員	濱口 佳和
授業概要	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、広く心理学が関係する領域全体を対象として、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。 加えて、英語で国際的な視点、方法で情報発信していくための基礎技能を身につける。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 コミュニケーション能力 国際性 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標(学修成果)	本科目は、心理専攻の学生が国際的な研究活動を推進していく認知的技能並びに知識を獲得することを目的として、a) 心理学に關係するweb教材による学習、あるいはb)国際学会、ワークショップ、実習活動などを通じた学習に対し、その学修効果が専攻で認められた場合に、単位認定をする
授業計画	本講義は、web教材の視聴や国際学会等への参加と報告書に基づいて単位が認定される。そのため、明確な授業計画を立てるのが難しいために、以下の流れに沿って講義を進める。 A. e-learningによる心理学の学修 下記の要件を満たすe-learning心理学学習教材について、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ学位プログラム教育(専攻)教育会議に報告・承認を得ている場合、その学修活動をもって単位の取得を認める、 *対象とする教材の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。 1)他大学において作成・運営されている心理学に關係するweb教材による学修 2)主たる使用言語が英語である 3)一方的な視聴など受動的な学習様態のみではなく、discussion,debate,presentation, action paperなどのreporting活動を含む 4)当該のe-learningを修了したことを確認できる文書がある B.国際的な活動による心理学の学習 下記の要件を満たす国際学会、シンポジウム・ワークショップ、インターンシップについて、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ対象とする活動の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。 1)学会あるいは大学、あるいはそれに匹敵すると認定される研究施設等で計画・運営される心理学に關係する研究活動に通算2日間(6.5時間/日として、13時間)以上の活動に参加でき る。国際学会での発表、国際シンポジウム、国際ワークショップなどの他、心理学の専門家を対象とした国際インターンシップも対象として含める。

授業計画	2)主たる使用言語が英語である 3)一方的な聴講など受動的な学習様態のみではなく,discussion,debate,presentationなどのアクティブな活動を含む 4)当該の活動を修了したことを確認できる文書がある 学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合,その活動をもって単位の取得を認める A.e-learningによる心理学の学修 1)受講生は履修を希望する学修プログラムを自ら選択し,指導教員に対し,その有用性,必然性を申請する. 2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する.また,学位プログラム教育会議に報告し,単位取得の承認を得る. 3)単位取得の承認が得られたら,受講生は学修活動を行う.その前後に,TWINSにて履修登録をしておく. 4)学修課程修了後,受講生は報告書を提出し,指導教員はそれを確認,承認した場合は,科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡,依頼する.同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する. B.国際的な活動による心理学の学修の場合 1)受講生は履修を希望する国際活動を自ら選択し,指導教員に対し,その有用性,必然性を申請する. 2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する.また,専攻教育会議に報告し,単位取得の承認を得る. 3)単位取得の承認が得られたら,受講生は国際活動を行う.その前後に,TWINSにて履修申請をしておく. 4)学修課程修了後,受講生は報告書を提出し,指導教員はそれを確認,承認した場合は,科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡,依頼する.同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する.なお,報告書においては,13時間の学習活動が行われたことを示す内容とする(例:国際学会などでは,自分自身の発表の他,複数の学会セッションでの学習活動についても報告する).
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	申請された学習内容と報告書に記載された学習活動,取得した成績に基づいて学位プログラムリーダーが成果を評価し,専攻教育会議で承認する e-learningによる心理学の学修の場合には,取得した成績(100%)にもとづいて,国際的な活動による心理学の学修の場合には報告書に記載された学習活動(100%)にもとづいて下記の5段階で評価する。 A+:到達目標を達成し,きわめて優秀な成績をおさめている A:到達目標を達成し,優秀な成績をおさめている B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない 提出された報告書について,達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	視聴した教材,あるいは参加した学会の発表に関する内容を自分で調べ,まとめること 1単位の授業科目は,45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付	

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	英語 e-learning心理学学習教材 国際学会 シンポジウム・ワークショップ，国際インターンシップ

授業科目名	心理基礎科学英語2
科目番号	OATB062
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋学期 随時
担当教員	濱口 佳和
授業概要	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、特に自分自身の研究興味に関連する領域について、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。 加えて、英語で国際的な視点、方法により情報発信していくための基礎技能を身につける。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 コミュニケーション能力 国際性 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標(学修成果)	本科目は、心理専攻の学生が国際的な研究活動を推進していく認知的技能並びに知識を獲得することを目的として、a) 心理学に関係するweb教材による学習、あるいはb)国際学会、ワークショップ、実習活動などを通じた学習に対し、その学修効果が専攻で認められた場合に、単位認定をする
授業計画	本講義は、web教材の視聴や国際学会等への参加と報告書に基づいて単位が認定される。そのため、明確な授業計画を立てるのが難しいために、以下の流れに沿って講義を進める。 A. e-learningによる心理学の学修 下記の要件を満たすe-learning心理学学習教材について、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ学位プログラム教育教育会議に報告・承認を得ている場合、その学修活動をもって単位の取得を認める、 *対象とする教材の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。 1)他大学において作成・運営されている心理学に関係するweb教材による学修 2)主たる使用言語が英語である 3)一方的な視聴など受動的な学習様態のみではなく、discussion,debate,presentation, action paperなどのreporting活動を含む 4)当該のe-learningを修了したことを確認できる文書がある B.国際的な活動による心理学の学習 下記の要件を満たす国際学会、シンポジウム・ワークショップ、インターンシップについて、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ対象とする活動の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。 1)学会あるいは大学、あるいはそれに匹敵すると認定される研究施設等で計画・運営される心理学に関係する研究活動に通算2日間(6.5時間/日として、13時間)以上の活動に参加でき

授業計画	る.国際学会での発表,国際シンポジウム,国際ワークショップなどの他,心理学の専門家を対象とした国際インターンシップも対象として含める. 2)主たる使用言語が英語である 3)一方的な聴講など受動的な学習様態のみではなく,discussion,debate,presentationなどのアクティブな活動を含む 4)当該の活動を修了したことを確認できる文書がある 学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合,その活動をもって単位の取得を認める A.e-learningによる心理学の学修 1)受講生は履修を希望する学修プログラムを自ら選択し,指導教員に対し,その有用性,必然性を申請する. 2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する.また,学位プログラム教育会議に報告し,単位取得の承認を得る. 3)単位取得の承認が得られたら,受講生は学修活動を行う.その前後に,TWINSにて履修申請をしておく. 4)学修課程修了後,受講生は報告書を提出し,指導教員はそれを確認,承認した場合は,科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡,依頼する.同時に学修内容ならびに報告書の内容,取得した成績から成績を認定する. B.国際的な活動による心理学の学修の場合 1)受講生は履修を希望する国際活動を自ら選択し,指導教員に対し,その有用性,必然性を申請する. 2)指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する.また,学位プログラム教育会議に報告し,単位取得の承認を得る. 3)単位取得の承認が得られたら,受講生は国際活動を行う.その前後に,TWINSにて履修申請をしておく. 4)学修課程修了後,受講生は報告書を提出し,指導教員はそれを確認,承認した場合は,科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡,依頼する.同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する.なお,報告書においては,13時間の学習活動が行われたことを示す内容とする(例:国際学会などでは,自分自身の発表の他,複数の学会セッションでの学習活動についても報告する).
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	申請された学習内容と報告書に記載された学習活動、成績等から学位プログラムリーダーが成果を評価し,学位プログラム教育会議で承認する e-learningによる心理学の学修の場合には、取得した成績（100%）にもとづいて、国際的な活動による心理学の学修の場合には報告書に記載された学習活動（100%）にもとづいて下記の5段階で評価する。 A+:到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A:到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない 提出された報告書について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及	視聴した教材,あるいは参加した学会の発表に関する内容を自分で調べ,まとめること

び授業外における学修方法	1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	英語 心理学e-learning教材 国際学会 ワークショップ シンポジウム

授業科目名	感覚知覚心理学特講
科目番号	OATB071
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春C夏季休業中 集中
担当教員	綾部 早穂
授業概要	情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。前年度に発表された海外雑誌論文の中から数報を選び、様々な観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。
備考	8月1日(木)5・6限 8月8日(木)、9日(金)1～4限 8月15日(木)、16日(金)1～4限 8月17日(土)1・2限 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	人の知覚・認知および情動に関する研究で説明されるデータや情報を理解する能力を養う。専門コンピテンス、 心理学的問題発見と人間理解力、 心理学的問題解決力、 心理学的情報発信力、 他領域間コミュニケーション力の向上を目指す。
授業の到達目標（学修成果）	情動理論の新説を理解する
授業計画	テキスト（2024年度は「身体と空間の表象」）を輪読し、知覚と行為の相互作用に関する理解を深める。 第1回 授業進行について、序（はじめに） 第2・3回 身体の表象 第4・5回 空間的刺激反応適合性 第5・6回 左右と上下の空間表象と身体表象 第7・8回 視覚運動学習 第9・10回 身体所有感と偽体錯覚 今後、検討されるべき研究トピックについて具体的な実験計画を考案しながら、検討する。
履修条件	特になし
成績評価方法	講義内での自身の発表（80％）および他者の発表に対する意見や討論（20％）に対して評価する。 発表内容について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	身体と空間の表象（シリーズ統合的認知第3巻） 横澤一彦・積山薫・西村聡生 緒 勁草書房
オフィスアワー等（連絡先含む）	特になし。必要あれば、メールで連絡すること。 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	知覚、認知、情動、行動、神経基盤

授業科目名	心理学と認知支援工学特講
科目番号	OATB072
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	通年 集中
担当教員	大山 潤爾
授業概要	感覚知覚心理学や認知心理学の実験心理学的アプローチを応用して、産業界や社会の課題に対するソリューションを提供できる研究の考え方、進め方について解説する。講義に加えて、受講生参加型ディスカッションと体験実習を含む。具体的には、企業との実際の共同研究事例に基づいて、ニーズの抽出・心理学的知見との対応・共同研究のテーマと目標の設定・実験計画・実験結果の社会実装までをロールプレイ等を交えて学ぶ。
備考	実施場所：産業技術総合研究所中央事業所6群6-11棟626室 〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンスのうち、 心理学的問題発見と人間理解力、 心理学的問題解決力、 心理学的支援力、 心理学的情報発信力と多様性の理解、 社会問題解決のための実践志向と社会実装のための多領域間コミュニケーション力に該当する。
授業の到達目標（学修成果）	心理学の研究知見を支援技術や情報デザインなどに応用する社会実装の考え方、社会課題を解決する心理学研究の考え方ができるようになる。
授業計画	第1回：実験心理学に対する社会や産業界の期待 第2回：社会のニーズから基礎研究を思考する 第3回：心理学の認知支援への応用事例紹介 第4回：社会課題に対するソリューションの提案方法 第5回：心理学研究知見の社会実装
履修条件	特になし
成績評価方法	全ての講義に出席し、レポートの提出することを単位取得条件とする。成績はレポートの内容及び実習や討論への参加や発表内容を総合的に評価する。 評価は、レポート30％、討論での発表内容30％、授業への積極性40％とし、総合で満点の60％をとること。なお、A+～C の評点は総合得点に基づいて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（35％）、実習（65％） 授業後に宿題を課すので、次回に発表資料やレポートを作成し提出すること。 全ての回に出席しインタラクティブな議論では積極的に発言して授業に参加すること。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。 各回の発表やレポートについて、達成度評価を基にフィードバックされる。
教材・参考文献・配付資料等	教材の指定は無し。参考文献は適宜指示する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	受講希望者は4月20日までに授業担当者にメールで連絡すること。 講義日程は受講生との相談の上、9月から11月末までの間で変更になる可能性があります。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	認知, 知覚, 注意, 記憶, 加齢, 多様性, デザイン, 社会実装

授業科目名	認知心理学特講
科目番号	OATB073
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋A 月3; 秋B 月4
担当教員	前澤 知輝
授業概要	認知心理学に関連する最新の研究 (Attention, Perception, & Psychophysics等) を購読し、それに基づく発表と議論を行う。購読する文献については、受講生の関心に沿って決定し、プレゼンテーション資料を作成する。当該の文献内容のレビューをしながら、認知心理学における問題の捉え方や仮説の立て方を学び、具体的な実験計画法や分析方法、得られた結果からの展開の仕方について理解を深める。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス：知の活用力 専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力，心理学的問題解決力，心理学的情報発信力，多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	認知心理学の基本的な概念に関する文献研究を丁寧に理解し，批判的・創造的思考力を身につける。また，当分野の測定対象（問題発見），データ収集方法，観察方法，分析方法，考察（人間理解）を学ぶ。得た知識を受講生それぞれの多様な研究課題に結びつけ（知の活用），役立てることができるようにする（問題解決力）。また，毎回のプレゼンテーションやディスカッションを通じて，情報発信力や，対話を行う能力（多領域間コミュニケーション力）も養っていく。
授業計画	本授業は，受講者が各々の興味や研究課題に基づいて，認知心理学に関連する最新の英語研究論文（主に，知覚/注意/記憶に関連する分野から選ぶ。一例としてAttention, Perception, & Psychophysicsなど）を分担・発表し，その内容についてコメント・ディスカッションを行うことを中心とする。授業は原則対面で開講する。毎回の授業では，1回につき論文2本を目安とし，受講者が担当し合う（受講人数によって変動する可能性あり）。下記は授業計画例であり，受講生の関心に沿って適宜修正を行う可能性がある。 第1回 オリエンテーション / 論文選定 第2回 論文紹介（当該分野のレビュー）：演習 第3回 論文紹介（当該分野のレビュー）：演習 第4回 論文紹介（研究法）：演習 第5回 論文紹介（研究法）：演習 第6回 論文紹介（統計・分析法）：演習 第7回 論文紹介（統計・分析法）：演習 第8回 論文紹介（応用や実践）：演習 第9回 論文紹介（応用や実践）：演習 第10回 まとめ
履修条件	特になし。
成績評価方法	担当文献の発表（内容の理解度，表現力や伝達力，準備状況）：80% 授業内での課題やディスカッション（積極性，対話の双方向性）：20% 対話の双方向性は，相手の理解度や反応に応じて柔軟に対応できているか，一方的に主張していないか，などをもとに評価する。 各回の発表について，達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て	授業時間に行うプレゼンテーション資料を準備する。

び授業外における学修 方法	また、プレゼンテーション資料は事前に参加者全員に共有する。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付 資料等	
オフィスアワー等（連 絡先含む）	maezawa.tomoki.fp@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ むことや受講上の注意 点等）	教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してく ださい。生成 AI に よる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は 批判的に評価し、責任を もって内容を 精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー （TF）・ティーチング アシスタント（TA）	
キーワード	知覚、認知、行動、環境（刺激）

授業科目名	教育心理学特講
科目番号	OATB081
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 金3,4
担当教員	外山 美樹
授業概要	教育心理学の分野の文献を講読し、教育心理学の方法論や最新の研究成果についての知識を深める。また、授業を通して、発表レジュメのまとめ方、プレゼンテーションの仕方といったような修士論文に結びつくようなスキルの獲得を目指す。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。各受講生が興味を持つ論文(英語、日本語)を2本ずつ程度発表する予定である。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	○汎用コンピテンス 1. 知の活用力 ○専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。具体的には、教育心理学に関する様々な研究方法や分析方法を獲得すること。
授業計画	1 オリエンテーション:授業で使用する書物の決定ならびに各人の興味に合わせた分担決定 2 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の研究方法) 3 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の分析方法) 4 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/教育心理学の実践方法) 5 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の研究方法) 6 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の分析方法) 7 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/最新の実践方法) 8 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/レビュー論文) 9 受講者の論文発表および全員による討論(1回につき論文2本を目安とする/総合的な討論) 10 まとめ
履修条件	授業担当教員の判断による。
成績評価方法	レポート（発表内容）（70%）と討論参加の内容（30%）に基づいて成績評価を行う。フィードバックは、毎授業で行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	<学修時間の割り当て> 受講者による発表（60%）、全員での討論（40%）、実習

方法	< 授業外における学修方法 > まずは、授業で学んだこと（専門用語の理解，統計分析の理解）について，復習をすること。 それ以外にも，常日頃，様々な論文に目を通してください。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	随時配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワー：メールによる問い合わせ mtoyama at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	「教育における生成AI活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	教育心理学 研究方法 分析方法

授業科目名	行動デザイン特講
科目番号	OATB082
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火5,6
担当教員	松田 壮一郎
授業概要	人間行動の記述、予測、制御を目的とした応用行動分析学を中心に据え、「行動」の機能を分析することを達成目標とする。また、最新の発達研究を行動分析的観点から読み解くことにより、新たな研究パラダイムを創出することも目的とする。行動変容に用いることができる最新のテクノロジーを概観すると共に、他分野(医学・工学など)との協働を通じた新しい研究、及びビジネスの可能性を、ディスカッションを通じて探っていく。他分野との協働により、人の行動変容について、新たな視点を提供する、行動のデザインを共に創造していく。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス：知の活用力 専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、他領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	（１）行動変容に関する最新の英語論文を読み、発表資料としてまとめ、整理して他者へ伝えること。 （２）行動変容に関する最新の英語論文で用いられているデータ分析手法を理解すること。 （３）行動変容に関する最新の英語論文で用いられているキーワードを理解し、自分の言葉でリフレーズできること。
授業計画	1. オリエンテーション：シラバスの説明と確認，文献の調べ方，発表の仕方 2. 文献発表：「心」による行動の説明の問題点 3. 文献発表：行動の定義，観察法と実験法 4. 文献発表：弁別と般化 5. 文献発表：レスポナント 6. 文献発表：オペラント 7. 文献発表：刺激性制御 8. 文献発表：強化随伴性 9. 文献発表：言語行動，随伴性形成行動とルール支配行動 10. 最終発表
履修条件	なし
成績評価方法	（１）評価方法：演習（100%） （２）評価の配点：毎週の発表や質疑の内容（約90%），学期末の最終プレゼンテーションにおける発表と質疑の内容（約10%） 演習へのフィードバックは授業内で毎回実施する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習(100%) 履修者は毎週、国際誌掲載された英語論文を少なくとも3本読んでまとめ、発表する。授業外における学習の方法:英語論文を日常的に読み、まとめること。授業に関するコミュニケーションはTeamsもしくはSlackで行う。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	参考図書（教科書は指定しない。購入する必要はない）： 1) Cooper, J. O., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). Applied Behavior

教材・参考文献・配付資料等	Analysis. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ: Pearson. (クーパー, J. O., ヘロン, T. E., ヒュワード, W. L. 中野良顯 (訳) (2013). 応用行動分析学 明石書店) 2) Mazur, J. E. (2005). Learning and Behavior. Upper Saddle River, NJ: Pearson Hall/Pearson Education.(メイザー, J. E. 磯博行・坂上貴之・川合伸幸 (訳) (2005). メイザーの学習と行動 二瓶社) 3) Barlow, D. H., Nock, M., & Hersen, M. (2009). Single Case Experimental Design: Strategies for studying behavior for change (3rd ed.). Boston, MA: Pearson Education Inc.(パーロー, D. H., ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間徹 (監訳) (1997). 一事例の実験デザイン: ケーススタディの基本と応用 二瓶社)
オフィスアワー等 (連絡先含む)	Microsoft Teamsのチャット機能, もしくはSlack等で随時質問を受け付けます matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受講生に望むこと: ヒトの行動変容や心理学研究におけるテクノロジーの活用についての知見を、自身の研究のみならず、自身の生活に活かして、より「幸せ」を感じやすくなりたいと考えている全ての方の受講を歓迎します。社会的課題と自身の研究との繋がりを常に考えながら、聴衆に応じたプレゼンテーションによって他者へ効果的に伝えるスキルを獲得してもらいたいです。 生成AIの利用については、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用すること。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。 注1) 授業開始前にPCやスマホなどにSlackを事前にダウンロードしてきてください。 https://slack.com/intl/ja-jp/ 注2) 社会的課題に関連して、国際目標である、持続可能な開発目標(SDGs)や、各種統計調査などをサーベイしておく、アイデアが出やすくなるかもしれません。 注3) 論文の読み方については過去にアップしたスライドが参考になるかもしれません。 https://www.slideshare.net/SoichiroMatsuda1/ss-97245000 生成AIの利用については、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用すること。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	なし
キーワード	応用行動分析学、人工知能、VR/AR、テクノロジー、社会的相互作用

授業科目名	青年心理学特講
科目番号	OATB083
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 火3,4
担当教員	佐藤 有耕
授業概要	青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。すなわち、青年とは誰か、青年期あるいは思春期とはどういう時期かについて心理学的に理解を深め、さらに青年の心理を理解するための多様な観点について身につけ、自分の研究に活用できるようにする。講読する文献は、学位論文などの重厚な研究の講読を基本とし、それ以外にも青年心理学の古典、体系的なテキスト、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。少人数で実施し、発表や討論なども行う学生参加型の授業となる。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	●汎用コンピテンス 1 知の活用力 ●専門コンピテンス 1 心理学的問題発見と人間理解力 2 心理学的問題解決力 4 心理学的情報発信力 5 他領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	#1 青年, 青年期, 青年心理学に関連する代表的な知見を理解し, 他者に説明できるようになる。 #2 青年心理の研究の現状と課題について理解を深め, 問題解決のために思考を深めることができるようになる。 #3 青年の心理を理解し研究するための複数の観点を身につけることができるようになる。 そして, #1に高水準で到達した場合には, 青年心理学的アプローチから, 心理学的情報発信力と他領域間コミュニケーション力を発揮できるようになる。#2に高水準で到達した場合には, 青年心理学的アプローチから, 心理学的問題解決力を発揮できるようになる。#3に高水準で到達した場合には, 青年心理学的アプローチから, 心理学的問題発見と人間理解力を発揮できるようになる。その結果として, 知の活用能力が実現可能となり, 知を社会に役立てることができる。
授業計画	2022年度から対面に戻しました。対面です。 青年心理学に関する重要な文献を教材として, 青年心理学に関する知見を深める。学位論文などの重厚な研究の講読を基本とし, それ以外にも青年心理学の古典, 体系的なテキスト, レビュー論文, 最新の学会誌論文, 隣接する学問領域の文献などを含める。少人数の受講生を対象として実施し, 教員からの講義に加えて, 発表や討論なども行う学生参加型の授業となる。 授業日(20250305時点での予定): 第一回目の授業時にスケジュールを確定させる。参考までにカレンダー通りの場合は, 4/15, 4/22, 5/7(水曜日), 5/13, 5/20, 5/27, 6/3, 6/10, 6/17, 6/24。

授業計画	0．オリエンテーション 1．思春期・青年期に関する先行知見の理解と確認 2．青年期の特徴の通覧-1:生涯発達の中の思春期・青年期の理解等 3．青年期の特徴の通覧-2:青年期の身体・心理・対人関係の特徴の理解等 4．青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(序論を中心に) 5．青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(本論を中心に) 6．青年心理学の重要文献の検討1:古典的学位論文(結論を中心に) 7．青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(序論を中心に) 8．青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(本論を中心に) 9．青年心理学の重要文献の検討2:最近の学位論文(結論を中心に) 10．青年心理学の重要文献の検討3:最新の専門書・テキスト等の検討 学位論文と同等の重みと深みを持つ学術図書に替える場合もあります。 具体的な内容に関しては,受講生との顔合わせの後に,年度ごとに検討して確定していきます
履修条件	日本語の文献が読めること。青年心理学の研究に興味・関心を持てること。発表,質疑応答,討論に参加できること。
成績評価方法	(1) 評価方法：授業に参加して,講義内容を十分に理解し,討議や発表や質疑応答など,受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行います。発表では,発表資料をWordで作成して発表してもらいます。学期期間中に少なくとも3回はレポート課題を課します。学期末レポートと確認テストはありません。発表については,当該研究の理解に資するよう準備された資料かどうか,発表者の当該研究に対する理解が十分なものかどうか,活発な討論を喚起させる情報発信力とコミュニケーション力があつたかどうかなどの観点を重視します。レポート課題は,知の活用,問題発見と人間理解,問題解決力,などが十分に反映されているかなどの観点を重視します。 (2) 評価の配点： 講義された内容に関してレポートの提出(30%), 作成された発表資料(50%), 討議や発表や質疑応答などの評価(20%)を用い,授業の到達目標に照らして学修成果を確認します。 の学習到達度については,課題の要求に真摯に対応しているかどうかと,知の活用,問題発見と人間理解,問題解決力,などが十分に反映されているかなどの観点を重視します。 の学習到達度については,当該研究の理解に資するよう準備された資料かどうか,発表者の当該研究に対する理解が十分なものかどうかなどの観点を重視します。 の学習到達度については,活発な討論を喚起させる情報発信力とコミュニケーション力があつたかどうかなどの観点を重視します。評価基準としては,到達目標を達成している場合はBの水準と評価します。到達目標を達成し,きわめて優秀な成績をおさめている場合はA+の水準,到達目標を達成し,優秀な成績をおさめている場合はAの水準,到達目標を最低限達成している場合はCの水準となります。 (3)フィードバックの方法： のフィードバックは授業内に口頭で行うか,最終週の後に,manabaを利用して,出題意図等の解説を伝えます。 のフィードバックは授業内に口頭で行います。 のフィードバックは授業内に口頭で行います。 総合評価は,A+,A,B,C,Dの評語で評価します。A+：到達目標を達成し,きわめて優秀な成績をおさめています。A：到達目標を達成し,優秀な成績をおさめています。B：到達目標を達成しています。C:到達目標を最低限達成しています。D:到達目標を達成していません。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	授業で使用する文献については,授業での理解を深めるために予習を行うことが求められます。レポートの作成には,レポート内容の構成のための章立ての決定,レポート内容を

方法	充実させるための資料収集, レポート内容を深めるための思考と吟味, レポート内容を他者にわかりやすく伝えるための推敲の作業を含みます。発表の場合には, 発表練習を事前に行うことが望ましいでしょう。レポートの提出は, 十分に検討した上で, 課題が出された週の次の週に提出することになります。発展的な学習として, 講義で触れた概念や研究について, 各自の関心に基づき, 図書館及びweb等を活用して, さらなる理解を深めておくことが強く推奨されます。以上により, 単位取得のためには授業時間と合算して合計90時間の学習を計画的に行うことになります。
教材・参考文献・配付資料等	紙版もしくは電子ファイルの資料配布を行います。参考文献としてシラバス上には下記をあげておきます。 1. 西平直喜・久世敏雄(編), 青年心理学ハンドブック, 福村出版, 1988 2. B. Bradford Brown, Mitchell J. Prinstein(編) 子安増生・二宮克美 (監訳), 青年期発達百科事典全3巻, 丸善出版, 2014 3. 日本青年心理学会(企画), 新・青年心理学ハンドブック, 福村出版, 2014 ここにあげた3点の書籍は参考文献です。教科書ではありません。購入する必要はありません。図書館で閲覧してください。
オフィスアワー等(連絡先含む)	オフィスアワーは特に定めておりません。授業のあと(春AB・火34終了後・15:00-15:15)に教員に話すか, あるいは前もって e-mail で連絡し, 日程調整して会うか, いずれかの方法を取ることでオフィスアワーの代替としております。なお, 火曜日は15:15から学類の授業がありますので, 長い時間は取れません。 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受稿した場合は, 自分のために真摯に学んでくださいませ。 履修経験者から過去の授業内容を聞いたり, 一回目の授業に参加してから, 履修するかどうかを判断するとよいでしょう。 この授業で生成AIを使う必要はありませんが, 使う人は以下をご覧ください。 「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し, 適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため, 得られた情報は批判的に評価し, 責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	配置はありません。
キーワード	心理学, 発達, 人格形成, 青年期, 思春期

授業科目名	自己心理学特講
科目番号	OATB084
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 木5,6
担当教員	千島 雄太
授業概要	自己、アイデンティティ、パーソナリティ、時間的展望等に関する文献を購読し、発表を通じてその概念や理論について理解を深める。購読する文献については、受講生の関心に沿って決定するが、できるだけ最新の文献を選択することで、近年の研究動向や分析方法について理解・習得する。発表後には他の受講者とのディスカッションを行う。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス：知の活用力、コミュニケーション能力、国際性 2.専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	自己心理学に関する最新の研究動向を把握し、適切な研究方法や分析方法を理解・習得する。また、発表や議論を通じて情報発信力やコミュニケーション力を高める。心理学という枠にとらわれず、「自己」という普遍的なテーマについて分野横断的に洞察する力を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション：受講生の興味に合わせて、担当する文献と日時を決定 第2回 パーソナリティ 第3回 未来・過去の自己 第4回 時間的展望 第5回 個人環境適合 第6回 アイデンティティ 第7回 自己複雑性 第8回 SNSにおける自己 第9回 身体化された自己 第10回 まとめ 授業計画は、受講生の関心に沿って適宜修正を行う可能性がある。授業内での課題を通して、最新研究を体験的に学習する機会を設ける。
履修条件	特になし
成績評価方法	担当文献の発表：70% 授業内での課題やディスカッション：30% 発表の質と、授業における積極性の合計が60%以上を合格とする。 発表の質は、発表の準備状況、論理展開、後続研究への発展性等を基準とする。 積極性は、課題への集中度、発言回数、他の受講生との協力度合い等を基準とする。 発表の後には、上記の基準に基づいて口頭でのフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（20%）、課題演習（10%）、発表（70%） できるだけ最新の文献に触れることで、近年の動向を把握するようにすること。 自身が担当する文献だけでなく、他の受講生が担当する文献にも目を通して予習すること。 また、派生する研究テーマや分析手法等を事前に調べ、ディスカッションの準備をすること。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	教材・参考文献は授業中に適宜紹介する。 1. John F. Rauthmann (編集), The Handbook of Personality Dynamics and Processes 2. Mark R. Leary et al. (編集), Handbook of Self and Identity 3. Maciej Stolarski et al. (編集), Time Perspective Theory: Review, Research and Application 4. ガブリエル・エッティンゲン他 (編集), 未来思考の心理学：予測・計画・達成する心のメカニズム 5. Dov Cohen et al. (編集), Handbook of Cultural Psychology
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールによる問い合わせ
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	毎回ノートPCを持参すること。ディスカッションの際には積極的に発言すること。 「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	自己、アイデンティティ、パーソナリティ、時間的展望、文化

授業科目名	計量心理学特講
科目番号	OATB085
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 金1,2
担当教員	山口 一大
授業概要	計量心理学・心理統計学に関わる英語論文・洋書等を輪読し、計量心理学・心理統計学への理解を深め、自身の研究に活かせるようにする。受講生は、英語論文を選択し（洋書の場合には割り当てられた章について）、内容を適切に要約したレジュメを作成し、発表を行い、受講者全員で議論を行う。自分が発表する回以外であっても、発表される文献を熟読し、理解できた点のみならず、疑問点やわからなかった点を整理して講義に臨む。
備考	オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス：知の活用力 ・学位プログラムコンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	本授業では、心理学や行動科学で用いられる統計手法についての専門書（主に洋書）を輪読し、統計的な手法の理論的な背景や心理学研究での利用方法、ソフトウェアの利用方法を習得する。専門書を輪読し受講者の間で議論を行うことにより、汎用コンピテンス（「知の活用力」）および学位プログラムコンピテンス（「心理学的問題発見と人間理解力」、「心理学的問題解決力」、「多領域間コミュニケーション力」）が身につく。
授業計画	本授業では、指定されたテキストの章や文献を授業までに熟読し、その内容をレジュメにまとめて参加者に向けて発表を行う。単に内容をまとめるだけでなく、その手法が用いられている具体的な研究を紹介したり、分析ソフトについての補足など追加の情報を加えることが望ましい。 以下、各回の講義計画を示す。ただし、使用するテキストは初回の講義の際に指定し、発表する箇所についても初回に役割分担を決定する。 第1回：ガイダンス・1. Meta-analysis in a Nutshell, 2. Mathematical Framework 第2回：3. Meta-analysis and the Scientific Method, 4. Meta-analysis and Random Effect Analysis 第3回：5. Meta-analyses of Randomized Controlled Trials, 6. Meta-analysis of Observational Plus Randomized Studies 第4回：7. Meta-analysis of Observational Studies, 8. Meta-regression 第5回：9. Meta-analysis of Diagnostic Studies, 10. Meta-Meta-analysis 第6回：11. Network Meta-analysis, 12. Random Intercepts Meta-analysis 第7回：13. Probit Meta-regression, 14. Meta-analysis with General Loglinear Models 第8回：15. Meta-analysis with Variance Components, 16. Ensembled Correlation Coefficients 第9回：17. Ensembled Accuracies, 18. Multivariate Meta-analysis 第10回：19. Transforming Odds Ratios into Correlation Coefficients, 20. Meta-analyses with Direct and Indirect Comparisons
履修条件	特になし。

成績評価方法	自身の担当の発表（準備した資料の質・内容の理解度など、80％）、積極的な議論への参加（自身の発表以外での質問・コメントなど、20％）に基づいて成績評価を行う。 発表の準備、積極的な議論への参加で、批判的にデータを見る力やデータ・情報リテラシー（汎用コンピテンス）、行動分析力や普遍性と多様性の理解、実証的な志向性と探究心（専門コンピテンス）を評価する。 発表の準備・資料、積極的な議論への参加は各回の発表の際にフィードバックを行う。 なお、生成AIを用いた資料作成の補助を行った場合は、どの点について、どのように利用したかを明記すること。明記せずに利用したことが発覚した場合には、評価を大幅に下げるので注意すること。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	発表準備が授業の予習に相当する。また、それぞれの講義内容を理解できていることが次の講義の内容の理解に影響を与えるため、講義資料の見直し、講義の録画などを活用した復習を行う必要がある。また、自身の発表分の内容のみならず、毎回発表対象となっている内容を事前に熟読して、理解できた点・理解が難しかった点を整理しておくこと。なお、本講義は2単位分の講義に相当するので、講義の時間を含めて合計90時間の学習を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	指定したテキストについては、担当教員が準備を行うので受講者が購入する必要はない。 1. Ton J. Cleophas and Aeilko H. Zwinderman, Modern Meta-Analysis: Review and Update of Methodologies オンライン（同時双方向）
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	生成AIの利用については、「教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理統計学，計量心理学，潜在変数モデル，シミュレーション

授業科目名	社会心理学特講
科目番号	OATB091
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 木3,4
担当教員	川上 直秋
授業概要	社会心理学に関する最近5年以内に掲載された英語論文を受講生が紹介し合い、この分野についての理解を深め、受講生の研究テーマへの適用可能性を探る。受講生は、自分の研究テーマと関連のある社会心理学論文を選び、過去の理論的背景も含めたレジュメを作成・発表する。それに基づき、ほかの受講生と議論を行い、社会心理学の方法論・理論の習得を目指す。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 4. 心理学的情報発信力
授業の到達目標（学修成果）	社会心理学分野の重要な学術論文の精読を通して、社会の中で生きる人々の心のメカニズムやそれにまつわる新たな課題や問題を発見し、社会心理学の観点から分析・解決する能力を習得する。また、社会心理学の研究テーマの設定方法、研究手法を身につけ、自身の研究に活かすことで情報発信力が高まる。
授業計画	受講者は順番に、社会心理学領域の学術誌から自分の関心のあるテーマに関連する英語論文を紹介・報告する。その報告を受けて全員で討論し、どのような点で自分の研究テーマに活かそうか議論する。 第1回 オリエンテーション 第2回 発表・ディスカッション(導入) 第3回 発表・ディスカッション(研究方法) 第4回 発表・ディスカッション(分析) 第5回 発表・ディスカッション(考察) 第6回 発表・ディスカッション(実験法) 第7回 発表・ディスカッション(統計解析) 第8回 発表・ディスカッション(全体での討論) 第9回 発表・ディスカッション(まとめ) 第10回 まとめ
履修条件	心理学の基礎的な知識を有し、社会心理学に興味のある者（特に、実験的方法）
成績評価方法	プレゼンテーション（70%）、討論への参加（30%）に基づいて総合的に評価する。プレゼンテーションの講評を含むフィードバックは、発表中あるいは発表後の講義内で行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	紹介する英語論文で使われている方法や統計解析について、説明できるようにしておく。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	論文紹介者は、英語論文の内容を説明する資料をパワーポイントで発表する。これを教材とする。 参考文献は、論文紹介者が講義中に紹介する。
オフィスアワー等（連	予めメールでアポイントメントをとる。

絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	生成AI については、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用すること。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	仮説生成法 社会的認知

授業科目名	臨床社会心理学特講(心の健康教育に関する理論と実践)
科目番号	OATB092
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	菅原 大地, 生田目 光
授業概要	心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的アプローチを学習する。受講者は、関連テーマを発表し、他の受講者との間で討議する。
備考	西暦奇数年度開講。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的なアプローチを身につける
授業計画	心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。 第1回：心の健康教育とは 第2回：様々な分野における心の健康教育 第3回：心の健康教育の実践例 第4回：自殺と自殺予防教育 第5回：ストレスマネジメント・ストレス低減法 第6回：セルフ・コンパッション 第7回：自己の客体化 第8回：性格への介入 第9回：臨床社会心理学と研究実践1 第10回：研究実践2とフィードバック
履修条件	
成績評価方法	各担当教員による課題提出(レポート) 100% レポート課題については、翌週以降の授業の中で解説・講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	関連論文や関連文献を読むこと。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない
オフィスアワー等(連絡先含む)	各担当教員に個別に連絡を取ること。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	偶数年度開講。 教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	

キーワード	心理教育，地域支援，ストレス
-------	----------------

授業科目名	臨床心理学特講I
科目番号	OATB101
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 金3,4
担当教員	濱口 佳和
授業概要	臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の領域、臨床心理学の方法論、心理臨床の職業倫理、心理臨床家の職業的発達等について、講義と内外の文献精読・討論を行う。以上に加え本講義では、臨床心理学及び心理臨床実務の中で、特に遊戯療法と箱庭療法の理論と実際について講義と内外の文献精読、演習、DVD視聴を通じて理解を深める。さらに、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の定める臨床心理士の業務についても講義し、公認心理師との異同について説明する。
備考	オンライン(対面併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス:1. 知の活用力 専門コンピテンス:1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	心理臨床を行っていくために必要な臨床心理学の基本的な知識・原理・倫理観を習得する 1. 臨床心理学の成り立ちや臨床心理学の構造を理解し, 説明できる 2. 臨床家としてのコンピテンシーと発達過程を理解し, 説明できる 3. 公認心理師の職責について理解し, 説明できる 3. 心理臨床家としての職業倫理について理解し, 具体的な問題について適切な判断ができる 4. 遊戯療法並びに箱庭療法の理論とセラピストに必要な態度条件, 具体的な展開過程について理解できる
授業計画	オンライン(対面併用型)により実施する 第1回から第7回まではオンデマンド授業ではTeamsによる視聴制限をかけるので, 各自でメンバー登録をしておくこと Teamsコードは ew9m50x 第8回以降は講師による講義と割り当てた文献についての受講生の発表と討論によって進める。 第8回以降の対面授業は人間系学系A棟202ゼミ室で行う。 各回の授業で使用する資料, 文献については講義の中で紹介・配布する 各回の授業は2コマを1セットとして行う 第1回4月18日 臨床心理学とは何か? ・臨床心理士の業務・公認心理師の職責 第2回4月25日 世界の臨床心理学の歴史1 - 古代から19世紀の精神医学の成立まで 第3回5月2日 世界の臨床心理学の歴史2 - フロイトの精神分析・ユングの生涯と理論 第4回5月9日 世界の臨床心理学の歴史3 - 精神分析のその語の展開・知能測定の起源・アメリカにおける臨床心理学の成立 第5回5月16日 世界の臨床心理学の歴史4 - 1930 年代以降の臨床心理学の理論と治療技法の発展 第6回5月23日 事例研究法 1 (事例研究法の概説と実際 1 教育領域の研究例) 第7回5月30日 事例研究法2 (事例研究法の研究例 非行・犯罪領域)

授業計画	第8回6月6日 遊戯療法の理論 第9回6月13日 閉ざされた心の扉 1 Dibsのプレイセラピーの過程 第10回6月20日 閉ざされた心の扉2 親面接によって明かされた謎
履修条件	心理学学位プログラム心理臨床学サブプログラムの正規生に受講を限定する
成績評価方法	60%以上の出席が評価の前提となる。各回において到達度確認テストを実施し、10回分の合計得点で評価する(100%)。 評価はこの授業の目標の達成度により、下記の5段階で行う A+: 到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A: 到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B: 到達目標を達成している C: 到達目標を最低限達成している D: 到達目標を達成していない
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内で紹介された論文・文献を各自で熟読しておくこと 2単位の授業科目は、講義時間(4時間×10回=40時間)を含めて90時間の学修を必要としている。
教材・参考文献・配付資料等	1. 金沢吉展(著),『臨床心理学の倫理をまなぶ』東京大学出版会 2. V.M. アクスライン,『開かれた小さな扉—ある自閉児をめぐる愛の記録』日本エディタースクール編集部 3. 弘中正美(著),『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版 4. 木村晴子(著),『箱庭療法—基礎的研究と実践』創元社 5. 下山晴彦・丹野義彦(編),『講座臨床心理学:臨床心理学とは何か』東京大学出版会 上記以外にも学術雑誌の論文を含む
オフィスアワー等(連絡先含む)	毎週木曜日13時30分~14時 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	各回において紹介された文献は各自で熟読すること 教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし
キーワード	臨床心理士, 公認心理師, 科学者—実践家モデル, コンピテンシーのCube Model, 職業倫理の7原則, 守秘義務, インフォームドコンセント, 無作為化比較試験, 事例研究・事例報告, 遊戯療法, アクスラインの8原則

授業科目名	臨床心理学特講Ⅱ
科目番号	OATB102
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋AB 火3,4
担当教員	生田 目 光
授業概要	臨床心理学特講Ⅰに引き続き、臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学及び心理臨床実務における主要な流派の理論と実際、特に、精神分析的療法、来談者中心療法、行動療法・認知行動療法、日本の心理療法について、講義と内外の文献精読・討論を通して理解を深める。公認心理師法、公認心理師の職責、公認心理師の活動5領域についても講義と討論を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンスのうち、心理学的問題発見、心理学的問題解決力、心理学的情報発信力に該当する。
授業の到達目標（学修成果）	心理支援に関する理論と実践を学ぶ。特に臨床における支援技術の基本的な知識と実践スキルを習得する。
授業計画	心理支援に関する文献の購読、発表及び討論を行う。 第1回 臨床支援とは 第2回 臨床支援の姿勢・構え 第3回 臨床支援とアセスメント 第4回 臨床支援の方法 （総論） 第5回 臨床支援の方法 （精神分析） 第6回 臨床支援の方法 （行動療法・認知行動療法） 第7回 臨床支援の方法 （人間性中心療法ほか） 第8回 臨床支援の場 第9回 臨床支援の実際 第10回 臨床事例を考える
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	討論への参加 40% 発表 60% 討論への参加に対するフィードバックは、授業内で実施する。発表へのフィードバックは授業期間後に、改めてmanaba等で評価基準を掲示して、その基準に沿って採点した旨を学生にフィードバックする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	(財)日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務、倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに、インテークカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で、専門書に掲載された優れた事例とDVDなどの視聴覚教材を利用して各種心理療法の理論と実際について理解を深める。受講生には積極的に討議に参加することが望まれる。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	1. 大塚義孝(編),『臨床心理学全書1:臨床心理学原論』 2. 下山晴彦・丹野義彦(編),『講座臨床心理学:臨床心理学とは何か』 その他、授業において提示いたします。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加すること。 「教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	臨床心理学 心理面接 心理療法 心理支援

授業科目名	臨床心理面接特講Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)
科目番号	OATB103
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 火3,4
担当教員	生田 目 光
授業概要	心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。授業前半は、心理面接に関する基礎の概説。また、関連文献の発表及び討論を行う。後半は、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行う。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンスのうち、心理学的支援力,心理学的問題発見,心理学的問題解決力に該当する。
授業の到達目標(学修成果)	本科目は、心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得することを到達目標とする。
授業計画	臨床心理学の諸基礎理論,心理臨床的介入の実際などを概説するとともに,心理臨床家の社会的役割,倫理等についても解説し,ディスカッションを行う。 1.精神分析的療法の理論 2.精神分析的療法の実際(事例) 3.来談者中心療法の理論 4. 来談者中心療法の実際(事例) 5. 行動療法の理論 6. 認知行動療法の理論 7. 行動療法・認知行動療法の実際(事例) 8. 心理に関する相談,助言,指導等への各心理療法の応用 9. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整の実際 10. まとめと総合討論
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る
成績評価方法	授業時に提示される課題50%、最終レポート50%により評価 授業時に提示される課題についてのフィードバックは、翌週の授業開始時に実施する。最終レポートに対するフィードバックは、授業期間後に、改めてmanaba等で評価基準を掲示して、その基準に沿って採点した旨を学生にフィードバックする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時に提示される課題について授業外で行い、次の授業に臨むこと。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本演習では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	以下を教材として使用するほか、必要な教材については授業時に提示 1. マリー・コーリー&ジェラルド・コーリー,心理援助の専門職になるために-臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト(臨床心理学レクチャー) 2. 杉江征・青木佐奈枝編著,ライブラリスタンダード心理学 スタンダード臨床心理学 3. 鑑 幹八郎(著),名島 潤慈(著),心理臨床家の手引[第4版]
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	授業に際しては必ず提示された課題を行って参加すること、積極的な姿勢で臨むこと。 「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理療法、心理面接、支援計画、心理支援、社会的役割、倫理

授業科目名	臨床心理面接特講Ⅱ
科目番号	OATB104
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春C 火3,4,金3,4
担当教員	杉江 征
授業概要	この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。そのため、授業では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法に関する体験的な学習を行う。
備考	対面 オンライン(同時双方向型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力、2. 心理学的問題解決力、3. 心理学的情報発信力、4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	心理臨床における面接の基本的技術と態度・心構えを身につけ、相談面接を担当できるようになる。 具体的には、心理臨床面接に関する専門的知識と面接技術、面接を通じた相談者の理解の仕方とかかわり方、相談者とのコミュニケーション・意図の伝え方などを学ぶことによって、スーパーバイザーの適切な指導のもとで心理臨床面接を担当できるようになることを目標としています。
授業計画	受講者のミニ・カウンセリング（ロール・プレイ）の検討を行う。ミニ・カウンセリングでは、各回、話し手と聴き手の役割をとった模擬面接場面の録音テープ(あるいはビデオ)と逐語録を作成し、それをもとに面接における話の聴き方を検討する。また、話の聴き方についてのグループワークやロールプレイ等も適宜行う。受講者全員が「話し手」と「聴き手」の役割を体験し、個々の受講者の実情に合わせた面接法の基礎的なトレーニングを実施していく予定である。 《第1回目》レポーターの割り振りと「話を聴くこと」の概説を行う。「話を聴くこと」の概説の中では、話を聴くことについての「訓練の意味」などについても概説を行う。 《第2回目》ミニ・カウンセリング1：面接の始め方 《第3回目》ミニ・カウンセリング2：何を聴くのか、訴えに耳を傾けること 《第4回目》ミニ・カウンセリング3：相槌の役割と機能、「聴いている」ことを伝える 《第5回目》ミニ・カウンセリング4：沈黙の意味と対応、目の前で起こっていること、相手と私の間にあるもの 《第6回目》ミニ・カウンセリング5：There and Then と Here and Now

授業計画	《第7回目》ミニ・カウンセリング6：体験過程（話し手の体験の流れにそう）、話し手と聴き手の体験の流れについて 《第8回目》ミニ・カウンセリング7：関与しながらの観察 《第9回目》ミニ・カウンセリング8：面接の終わり方 《第10回目》体験の振り返りとフィードバック、聴き方の評価。
履修条件	受講は心理臨床コースの学生に限る
成績評価方法	課題への取り組み《面接スキルの修得・達成状況と各テーマの理解度を評価》(70%)、授業への主体的なかかわり方《各回のコメント・振り返りなどから、自己理解の程度を評価》(30%)をもとに全体的な評価を行う。全体の60%が合格の基準。なお、A+～Cの評点は全体合計に基づいて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（20%）と演習（80%）を併用する。授業外においては、ミニ・カウンセリングの逐語録を作成するとともに、実施した自身のミニ・カウンセリングについて事前に検討しておくこと。さらに、心理臨床に関する書籍や論文、事例報告など文献的な学習を行うとともに、各授業で扱われたテーマ等について、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていくこと。本授業は2単位のため、授業時間と予習復習などの授業外学修を含めて90時間の学修時間を求める。
教材・参考文献・配付資料等	1. 土居 健郎,『方法としての面接—臨床家のために』(1992) 2. James Morrison, " The First Interview 4版 " (2014)
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールで連絡ください。よろしくお願いします。 sugie at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通じた自己と他者との交流である。それゆえ、授業では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。授業の中で取り上げられる話題についても、各自がそれぞれの体験をもとに吟味し、その話題と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていって欲しい。 生成AIの利用については、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。何よりも、自分自身で体験的に理解していくことが重要と考えております。
他の授業科目との関連	OATB103 臨床心理面接特講I(心理支援に関する理論と実践)
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	面接のスキル，自己理解，他者理解，治療関係

授業科目名	臨床心理基礎実習
科目番号	OATB111
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB秋AB 木3,4
担当教員	杉江 征, 浅野 憲一, 濱口 佳和, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田目 光, 糸井 千尋, 安 婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。 教員のインテークに同席し、またインテークカンファレンスに出席してケースを臨床心理学的に見立てる力を養う。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理臨床の実践力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになる
授業計画	心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。 心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。 教員 のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である 第1回：インテーク面接の概要 第2回：インテーク面接の準備 第3回：インテーク面接の観察 第4回：インテーク面接の同席 第5回：インテーク面接の実施 第6回：インテーク面接の振り返り 第7回：インテーク面接の記録作成 第8回：インテークカンファレンスでの発表 第9回：支援方針の検討 第10回：担当者への引継ぎ
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	相談室における活動 40% インテークカンファレンスでの発表 30% インテークカンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われる。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付	特に定めない

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	セメスター中は毎週木曜13時30分~14時 総合研究棟D、701研究室 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加し。質問すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	インテーク，ケースアセスメント，観察，心理支援，リファーマ，見立て

授業科目名	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習ⅠIC)
科目番号	OATB112
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB 木4
担当教員	浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田目 光, 糸井 千尋, 安 婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の習得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、ケースカンファレンス等を通して、相談者の問題や障害に関する理解を深め、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	各相談室における個別ケースを通して心理支援の実践を行い、心理支援の基本的な技術を身につける
授業計画	ケース・カンファレンスを通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得と、ニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。 相談室内のケースの支援実習を通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得し、心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。 第1回：担当ケースの事前学習 第2回：担当ケースへの支援 第3回：担当ケースを通じた職業倫理と法的義務に理解 第4回：担当ケースの面接記録・振り返り 第5回：担当ケースの発表資料作成 第6回：担当ケースのカンファレンス 第7回：担当ケースへのチームアプローチ 第8回：担当外ケースの事前学習 第9回：担当外ケースのカンファレンス 第10回：担当外ケースの事後学習
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	相談室における活動 40% ケースカンファレンスでの発表 30% ケースカンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。

教材・参考文献・配付資料等	特に定めない
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加し、質問すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	ケース・カンファレンス，職業倫理，法的義務，チームアプローチ，支援計画，実習

授業科目名	臨床心理実習Ⅱ
科目番号	OATB113
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB 木3
担当教員	菅原 大地, 浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田目 光, 安 婷婷, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	臨床心理実習Ⅰに引き続き、心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相 談室を用いて臨床支援技術の修得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当 し、相談者の問題や障害に関する支援アプローチについてグループスーパービジョン及 び個別スーパービジョンを通して学ぶ。心理療法を行うのに必要な技能の習得に努め る。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コン ピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発 信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修 成果）	各相談室における個別ケースを通して心理支援の実践を行い、基本的な支援方法を身に つける
授業計画	ケース・カンファレンスを通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得と、ニー ズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職 業倫理及び法的義務について学ぶ。相談室内のケースの支援実習を通して、心理支援を要 する者への知識及び技能を習得し、心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画、 支援を要するものへのチームアプローチ、公認心理師としての職業倫理及び法的義務につ いて学ぶ。 第1回：担当ケースの事前学習 第2回：担当ケースへの支援 第3回：担当ケースを通じた職業倫理と法的義務に理解 第4回：担当ケースの面接記録・振り返り 第5回：担当ケースの発表資料作成 第6回：担当ケースのカンファレンス 第7回：担当ケースへのチームアプローチ 第8回：担当外ケースの事前学習 第9回：担当外ケースのカンファレンス 第10回：担当外ケースの事後学習
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限 る
成績評価方法	相談室における活動 40% カンファレンスでの発表 30% カンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及 び授業外における学修 方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義で は90時間）。

教材・参考文献・配付資料等	特に定めない
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加し、質問すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理支援，チームアプローチ，職業倫理，法的義務，カンファレンス，実習

授業科目名	発達臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習ⅠID)
科目番号	OATB114
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB 木3
担当教員	濱口 佳和, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地
授業概要	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室ケースカンファレンスへの出席も含める。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	1. 子どもの問題が何であるか見極める能力の獲得 2. 多様な情報を活用し、子どもの問題の形成、維持、変容についての仮説モデルを構築する能力の獲得 3. 子どもの問題のアセスメントに使用される心理検査について理解し、説明でき、テストバッテリーを構成する能力の獲得 4. 子どもとの心理臨床の展開過程を理解する能力の獲得 5. 子どもの問題状況に即して、有効な援助法を考案できる能力の獲得
授業計画	心理臨床コースの2年時の学生は、本科目が OATB112「心臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習ⅠIC)」のどちらか1科目を選択必修とする。基本的には発達臨床心理学分野(濱口研究室)の学生が履修すること。 公益財団法人臨床心理士資格認定協会が定める第1種指定校の必修科目であり、かつ公認心理師受験資格に関わる2年次の実習科目である。 受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。この授業では特に相談室のカンファレンスへ(毎週木曜3時限)とGSV(隔週木曜7・8時限)の出席と担当事例の発表・討論への参加が求められる 今年度の授業は対面で実施する 場所は木曜3時限は総合研究棟D 1階117室(マルチメディアルーム) GSVの場所はその都度示す 第1回 子ども相談室ガイダンス 第2回 インテーク面接の進め方・記録の取り方・報告書の作成法 第3回 子どもの行動の観察・記録法 第4回 子どもの問題のアセスメント法1 CBCL 第5回 子どもの問題のアセスメント法2 KIDS, MS社会生活能力検査 第6回 子どもの問題のアセスメント法3 自閉スペクトラム症・ADHD関連の検査法

授業計画	第7回 具体的事例のインテーク情報の検討1(幼児期の内在化問題) 第8回 具体的事例のインテーク情報の検討2(幼児期の外在化問題) 第9回 具体的事例のインテーク情報の検討3(児童期の内在化問題) 第10回 具体的事例のインテーク情報の検討4(児童期の外在化問題) 第11回 相談室マネジメント法 第12回 保護者面接の方法 第13回 ペアレント・トレーニング1 自己の養育行動・メンタルヘルスを振り返る 第14回 ペアレント・トレーニング2 応用行動分析学から見た養育行動の機能の理解を促す 第15回 ペアレント・トレーニング3 子どもの行動のモニタリング 第16回 ペアレント・トレーニング4 子どもの行動の強化 第17回 ペアレント・トレーニング5 適切な指示の与え方 第18回 ペアレントトレーニング6 叱責・罰手続き 第19回 継続事例の理解1 子どもの内在化問題の事例 第20回 継続事例の理解2 子どもの外在化問題の事例
履修条件	受講は心理臨床サブプログラムの正規生に限定される。
成績評価方法	日常の相談室でのケース・実務に対する主体的・協力的参加の度合い(40%),GSVでの発表(40%)、カンファレンス・ケースのミーティングでの発言(20%)を総合的に評価。 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	取り上げられた問題行動や精神疾患,介入方法,アセスメント法について,関連資料を熟読して理解を深める。 以上について,1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	1. ゲリー・ランドレス,『新版・プレイセラピー:関係性の営み』 日本評論社 2. 弘中正美,『遊戯療法と子どもの心的世界』 金剛出版 3. R.フォアハンド&N.ロング,『困った子が5週間で変わる—親にできる行動改善プログラム』日本評論社
オフィスアワー等(連絡先含む)	毎週木曜日13時30分~14時 総合研究棟D706研究室 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	カンファレンスに積極的に参加すること,心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して授業に臨むこと,発表された心理臨床実践についてよく復習をしておくこと,受講生同士での討論を活発に行うこと。 教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	行動観察, 半構造化面接, 構造化面接, ケースフォーミュレーション, チーム援助, プレイセラピー, 行動療法, 社会情緒的学習, 多職種連携, 事例報告

授業科目名	発達臨床心理実習Ⅱ
科目番号	OATB115
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB 木7
担当教員	松田 侑子, 濱口 佳和, 水野 雅之, 菅原 大地
授業概要	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室の専任・非常勤相談員によるグループ・スーパービジョンへの出席、発表、討論への参加も含める。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	1. 子どもの行動、子どもとセラピストとの相互作用を観察・記録し、行動を前後の文脈のから理解する能力の獲得 2. 保護者の子どもについての話を傾聴し、効果的に情報を収集・分析する能力の獲得 3. 多様な情報を活用し、子どもの問題の形成、維持、変容についての仮説モデルを構築する能力の獲得 4. 援助チームの一員としての役割を自覚し、メンバーと協働できる能力の獲得 5. 子どもとのラポールを形成する能力の獲得 6. プレイセラピーを実施する能力(アクスラインの8原則)の獲得 7. 行動療法により子どもの行動を変容する技術の獲得 8. 社会情緒的学習を実施する能力の獲得 9. 外部機関・多職種と連携する能力の獲得 10. 自己の実践を振り返り、内省する能力の獲得 11. 事例報告をまとめる能力の獲得
授業計画	心理臨床コースの2年時の学生は、本科目か OATB113「臨床心理実習Ⅱ」の どちらか 1 科目を選択必修。基本的には発達臨床心理学分野(濱口研究室)の学生はこの授業を履修すること。 公益財団法人臨床心理士資格認定協会が定める第1種指定校の必修科目である。 受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを 組んで従事することが求められる。この授業では特に相談室のカンファレンスへの参加(毎週木曜3時限)とGSV(隔週木曜7・8時限)の出席と担当事例の発表・討論への参加が求められる 今年度の授業は対面で実施する 木曜73時限目の場所は総合研究棟D 1階117室(マルチメディアルーム) GSVの場所はその都度示す

授業計画	第1回 介入チーム内での役割行動, プレイルームの施設設備, 子どもの行動の観察・記録法 第2回 遊戯療法概説1 理論 第3回 遊戯療法概説2 遊戯療法の展開過程1(ラポール形成・初期の展開過程:遊戯法1) 第4回 遊戯療法概説3 遊戯療法の展開過程2(発展期の展開:遊戯法2) 第5回 遊戯療法概説4 遊戯療法の展開過程3(終結期の展開:遊戯法3) 第6回 INREALアプローチの概説 第7回 模擬プレイセラピー1(ラポール形成) 第8回 模擬プレイセラピー2(受容的・共感的応答) 第9回 模擬プレイセラピー3(制限破りへの対応) 第10回 具体的事例のGSV4 今年度の授業はオンライン双方向・オンデマンドのハイブリッドで行う
履修条件	受講は心理臨床サブプログラムの正規生に限定される。
成績評価方法	日常の相談室でのケース・実務に対する主体的・協力的参加の度合い(40%), GSVでの発表(40%)、カンファレンス・ケースのミーティングでの発言(20%)を総合的に評価。 講義時間内で実習の振り返りを行い, その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	子ども担当のセラピスト, 子どもの行動観察者, ならびに保護者の面接陪席者として正確な記録の取り方を心掛けること 自分がセラピストとしての役割を果たす際は, あらかじめケース記録に目を通し, 子どもの特性の把握に努めること 1ケース終結したら必ず通しでケース報告書を作成すること 精神疾患や問題行動に関する実証的なエビデンス, 使用可能な心理検査, 適用可能な子ども対象の心理療法について積極的に関心を持ち, 自発的に調べること 以上について, 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	1. グリー・ランドレス, 『新版・プレイセラピー:関係性の営み』 日本評論社 2. 弘中正美, 『遊戯療法と子どもの心的世界』 金剛出版 3. R. フォアハンド&N. ロング, 『困った子が5週間で変わる—親にできる行動改善プログラム』 日本評論社
オフィスアワー等(連絡先含む)	毎週木曜日13時30分~14時 総合研究棟D716研究室 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	カンファレンスやグループ・スーパービジョン, 事例ごとのミーティングに積極的に参加すること, 心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと, 各自が行った心理臨床実践について毎回よく 振り返りを行い, 長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた 場合の備えとして, 相談室で進める保険に加入することを求める。 教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	行動観察, 半構造化面接, 構造化面接, ケースフォーミュレーション, チーム援助, プレイセラピー, 行動療法, 社会情緒的学習, 多職種連携, 事例報告

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)
科目番号	OATB116
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春学期 随時
担当教員	松田 侑子, 菅原 大地
授業概要	臨床心理学の研究法で、同時に様々な心理臨床の現場で不可欠の技術でもある心理学的査定の理論と方法について学ぶ。演習Ⅰでは、WAISや田中ビネー等の個別式知能検査を中心的に取り上げ、理論的に学習するとともに、グループによる実技指導を通じて検査の具体的手続き等、査定技術の習熟を目指す。また、発達検査、ASDやADHDのスクリーニング検査、CBCL等の子どもの問題行動の概括的な評定尺度についても理解を深める。
備考	対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力, 2. マネージメント能力, 3. コミュニケーション能力, 4. チームワーク力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力, 2. 心理学的問題解決力, 3. 心理臨床実践力, 4. 心理学的情報発信力, 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	心理アセスメントの意義、個別式知能検査やその基礎となる理論について、理解し説明できるようになることで、幅広い知識や多様な視点から問題を見出し、解決していく力を習得します。また、WAISや田中ビネーの具体的な手続きが査定技術を習熟することで、心理臨床家として高度な倫理観を身に付け、専門的な心理支援を実践する力を獲得することができます。 加えて、結果を解釈しまとめる中で、習得してきた専門的知識に基づき、人の心と行動の問題や、環境との関わりについての発見・理解・解決をしていく力が身につきます。また、結果のフィードバックについて理解を深めることで、要支援者や関係者による問題理解・解決を促すために、アセスメント結果を活用する力、多職種との連携や協働において専門的な立場から助言や指導を行う力を身に付けます。
授業計画	心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について、それぞれの検査の背景、理論の理解を深めるとともに、演習を通じて、検査の実施・採点、個人の知能・発達水準の評価の仕方を身につける。公認心理師の業務の中でのアセスメントの意義を理解を深める。 第1回 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義（松田） 第2回 WAISⅣ知能検査1理論的背景とテストの全体像（松田） 第3回 WAISⅣ知能検査2言語理解下位尺度の理論と実際（松田） 第4回 WAISⅣ知能検査3知覚推理下位尺度の理論と実際（松田） 第5回 WAISⅣ知能検査4 ワーキング・メモリ下位尺度の理論と実際（松田） 第6回 WAISⅣ知能検査5 処理速度下位尺度・補助検査の理論と実際（松田） 第7回 WAISⅣ知能検査6 結果のまとめと解釈（松田・菅原） 第8回 WAIS の実習（実技試験）（松田） 第9回 田中ビネー 理論的背景、実際と結果のまとめ・解釈（松田） 第10回 まとめ・フィードバック（松田） 各回は 2時限分
履修条件	受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。

成績評価方法	各回の授業への積極的参加・WAISIVの実技試験と、レポート課題の出来栄を総合的に評価する 評価に対する比重は1：1 目標の到達度によって下記の5段階で評価する A+：到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている A：到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている B：到達目標を達成している C：到達目標を最低限達成している D：到達目標を達成していない 実技試験については、講義時間内に振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。また、最終週にも全体に向けてフィードバックを行う。レポート課題については、個別にレポートについてコメント・講評を入れ、manaba上で返却する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	・本授業は2単位のため、授業外における学修と合わせて90時間分の学修時間を標準とする。そのため授業計画に合わせた学修として、各回の授業内容についての振り返りや、授業で示された参考文献や関連論文・書籍等のレビューに取り組むことを求める ・個別式知能検査のマニュアルなどを一定期間貸与するので、その間に実施手続きや解答基準について繰り返し練習をしてスムーズに実施できるようにしておくこと
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	毎週木曜日15時00分~16時00 総合研究棟D705室
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	・個別式知能検査はスムーズにできるようになるまで繰り返し練習してください ・「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	心理アセスメント、個別式知能検査、WAISIV、田中ビネー

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅱ
科目番号	OATB117
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	菅原 大地, 濱口 佳和, 水野 雅之
授業概要	臨床心理支援において必須とされる心理査定法(検査法)のうち、特にパーソナリティ検査についてその理論と実践方法を学ぶ。MMPI.P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テストなど質問紙法、投影法について理論を学ぶと共に試行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンスのうち、1.人間観察力、2.行動分析力心理学的支援力、3.心理学的支援力、4.普遍性と多様性の理解、5.心理学的問題解決実践志向、6.実証的な思考性と探求心に該当
授業の到達目標(学修成果)	臨床心理支援において必須とされる心理査定法のうち、特にパーソナリティ・アセスメント、及びパーソナリティ検査についてその理論を学び、実践できるようになる
授業計画	臨床心理支援において必須とされる心理査定法のうち、特にパーソナリティ・アセスメント、パーソナリティ検査、症状検査についてその理論と実践方法を学ぶ。 MMPIなど質問紙検査、P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テスト、描画法、質問紙法、作業検査について理論を学ぶと共に施行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。 第1回 投影法(RTを中心としたアセスメント) 水野先生 第2回 投影法(RTの解釈) 水野先生 第3回 投影法(P-Fスタディ、SCTなど) 菅原先生 第4回 投影法(描画法など) 菅原先生 第5回 発達検査を中心としたアセスメント 濱口先生 第6回 発達検査の解釈 濱口先生 第7回 臨床支援におけるアセスメント 菅原先生 第8回 テストバッテリー 菅原先生 第9回 報告書のまとめ方、フィードバック 菅原先生 第10回 アセスメントと支援計画 菅原先生
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る
成績評価方法	授業時に毎回提示する課題、レポートの評価(50%)と、試験得点の評価(50%)の2点で評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時に提示する課題については必ず行ってから授業に参加すること。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	以下は使用。その他は授業時に提示する - 小川俊樹編, 投影法査定心理学特講 - 杉江征・青木佐奈枝編, ライブラリストナード心理学 スタンダード臨床心理学 - 伊藤宗親編, 事例で学ぶ ロールシャッハ法入門
オフィスアワー等(連	菅原 大地

絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	授業時に提示する課題については必ず行ってから授業に参加すること 教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	臨床心理査定, パーソナリティ・アセスメント, 質問紙法, 投映法, 作業検査, テストバッテリー

授業科目名	児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X)
科目番号	OATB121
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 金3,4
担当教員	濱口 佳和
授業概要	児童虐待、不登校、選択性緘黙、いじめ、非行等、学齢期に好発する児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを担当を決めて輪読する。これを通して、家庭と学校における子どもの問題行動や精神疾患に対する取り組みについて、理論と介入方法についての知見の獲得を目的とする。
備考	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	1. 発達精神病理学の基本的概念・理論を理解し、説明できる 2. 児童臨床心理学の研究方法について理解し、説明できる 3. 児童臨床心理学の介入方法について理解し、説明できる 4. 攻撃行動・反社会的行動など児童・青年の外在化問題について、概念、アセスメント、介入法について理解し、説明できる 5. 抑うつ、不安症等の児童・生徒の内在化問題について、概念、アセスメント、介入法について理解し、説明できる 6. 自閉スペクトラム症、ADHD等児童・生徒の内在化問題について、概念、アセスメント、介入法について理解し、説明できる 7. 養育者の心理と行動、特にマルトリートメントについて理解し、説明できる
授業計画	幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究方法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする 受講生は各回の授業は参考文献の担当分についてレジュメを作って発表する。授業では、発表内容について講師がさらに補足説明・フィードバックを行い、受講者の理解を深める 第1回. 子どもの精神疾患・問題行動を理解する視座 第2回. 児童臨床心理学の研究法-事例研究法・単一事例実験計画法 第3回. 児童臨床心理学の介入法-遊戯療法・箱庭療法 第4回. 児童臨床心理学の介入方法ー行動療法・認知行動療法 第5回. 攻撃行動・反社会的行動など児童・青年の外在化問題 第6回. 抑うつ、不安症等の児童・生徒の内在化問題 第7回. 発達障害 第8回. 養育者の心理と行動・マルトリートメント 第9回. 発達臨床心理学論文精読-基礎研究

授業計画	第10回.発達臨床心理学論文精読－介入研究
履修条件	他学位プログラム受講生は学部で心理学,発達心理学,臨床心理学の単位を取得した経験があること
成績評価方法	発表内容・発表の仕方,レポートを総合的に評価する。成績に反映させる比率は1:1
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各回の授業で紹介される論文等を各自で精読すること。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	1. 石川信一/佐藤正二(編集),「臨床児童心理学」 ミネルヴァ書房 2. 弘中正美(著),「遊戯療法と子どもの心的世界」金剛出版
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜13時30分~14時 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	2回(4コマ)以上の欠席で単位の取得は不可となる 西暦奇数年度開講 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	発達精神病理, 事例研究法, 単一事例実験計画法, 遊戯療法, 認知行動療法, 反抗挑戦症, 素行症, 抑うつ障害, 発達障害

授業科目名	発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)
科目番号	OATB122
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火3,4
担当教員	濱口 佳和
授業概要	幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究手法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする
備考	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	1. 教育・学校分野において公認心理師が直面する諸問題について幅広く理解し、説明できる 2. 不登校の問題の現状と心理学的支援について理解し、説明できる 3. いじめの問題の現状と心理的支援について理解し、説明できる 4. 予防教育(社会情緒的学習プログラム)について理解し、説明できる
授業計画	受講生は各回の授業は参考文献の担当分についてレジュメを作って発表する。授業では、発表内容について講師がさらに補足説明を加え、受講者の理解を深める 原則火曜日3・4時限目とするが、講師が出席しなければならない会議の日程等のため、第1回は10月8日とします。これに加え、臨時休業日での開講や、休日の集中講義も併用するので、受講希望者は授業日程に注意してください。 第1回・10月8日 公認心理師が直面する学校教育分野における今日的課題 第2回・10月22日・3時限目のみ 不登校の理論と心理的支援の実際(講義) 第3回・11月5日 不登校の理論と心理的支援の実際(実践事例1:非支持的カウンセリングによる成功例) 第4回・11月12日 不登校の理論と心理的支援の実際(実践事例2:行動的カウンセリングによる成功例) 第5回・12月3日 いじめの理論と心理的支援の実際(講義) 第6回・12月10日 いじめの理論と心理的支援の実際(予防教育プログラム1:オルヴェウスいじめ予防プログラム) 第7回・12月21日(土) 2時限目 いじめの理論と心理的支援の実際(予防教育プログラム1:KiVaプログラム/シェフィールド・プロジェクト) 第8回・12月21日(土) 4時限目 Fast Track予防教育プログラムの概要 第9回・12月21日(土) 5時限目 Fast Track予防教育プログラムの長期的成果 第10回 12月21日(土) 6時限目 まとめと振り返り
履修条件	他学位プログラム受講生は学部で心理学、発達心理学、臨床心理学の単位を取得した経験があること

成績評価方法	発表内容・発表の仕方，レポートを総合的に評価する。成績への反映は1：1とする。 レポートについて，達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各回の授業で紹介される論文等を各自で精読すること。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	適宜紹介する この授業はオンライン双方向で実施します 受講生はTeams「OATB122「発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)」」に登録してください Teamsコードは fakh8qt です
オフィスアワー等（連絡先含む）	毎週木曜 午後1時30分~午後2時 総合研究棟D 706研究室 yhama at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	2回(4コマ)以上の欠席で単位の取得は不可となる。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	不登校，いじめ，予防教育

授業科目名	精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開X)
科目番号	OATB125
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋C 集中
担当教員	白鳥 裕貴
授業概要	精神医学の枠組みについて理解を深めるとともに、精神医学の理論、アセスメント、治療について学ぶ。精神医学総論、アルコール・薬物依存、児童・思春期の精神疾患、気分障害、統合失調症、認知症、心因性精神障害、摂食障害、パーソナリティ症状精神病、医療連携、治療等について現役の精神科医が講義を行う。
備考	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る 西暦偶数年度開講。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 1. 知の活用力 専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力 2. 心理学的問題解決力 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	代表的な精神疾患について、その概要を説明できるようになる。 精神疾患に対する薬物治療について、基本となる薬理学的仮説を説明できるようになる。 心理療法、精神療法について概要を説明できるようになる。 精神科臨床において代表的な施設について概要を説明できるようになる。
授業計画	第1回 精神医学総論 新井 哲明 第2回 治療(精神療法、薬物療法、身体療法) 佐藤 晋爾 第3回 行政(精神保健福祉法、精神科救急、自殺、触法精神障害) 白鳥 裕貴 第4回 単科精神科病院(統合失調症、双極性障害) 井出 政行 第5回 精神科診療所(睡眠障害、不安症、強迫症) 塚田 恵鯉子 第6回 リワーク、デイケア(うつ病) 松崎 朝樹 第7回 学校(発達障害、児童思春期、摂食障害) 田村 昌士 第8回 アルコール、薬物、パーソナリティ障害 袖山 紀子 第9回 総合病院(症状精神病、がん患者に対するサポート) 今井 公文 第10回 認知症疾患医療センター(認知症、高齢者) 太田 深秀
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	レポートで評価する(100%) レポートについて、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各講義で説明される疾患や治療法について、関連する書籍を読み、予習と復習を行う。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	各回、資料を配布する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	世話人 菅原大地
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	臨床精神医学，モノアミン仮説，ドパミン仮説，リエゾン精神学，自殺予防，児童思春期精神医学，老年期精神医学

授業科目名	神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開Y)
科目番号	OATB126
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中 集中
担当教員	仲田 真理子
授業概要	神経心理学に関する最新の文献を取り上げて討論し、臨床心理学に関連する生物学的・神経科学的知識ならびに研究方法について学び、理解を深める。受講する学生が興味・関心のある学術論文、または専門書籍の章を担当・紹介し、受講生全員で討論する。
備考	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス：知の活用 専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力，心理学的問題解決力，心理学的情報発信力，多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	本授業では，神経解剖学や生理学，精神薬理学などを含む神経・生理心理学の基礎を学んで臨床心理士・公認心理師になる上で欠かせない知識を身につけ，その知を活用する力を身につけることができる。生物学的な基礎知識に基づいて心理学的問題を発見し、人間を理解する力を高める。生物としての人間を知ることは心理学的問題の解決力や心理学的情報を発信する力を高めることにもつながる。 これらの体系的な知識の獲得とディスカッションを通して、医学・薬学・神経科学を含む多領域間でのコミュニケーション力を高め、学際的な視点を身に着けることができる。
授業計画	本授業では，神経・生理心理学に関する概論から，それらの知識をどのように臨床場面で活かすことができるかまで幅広く解説、議論する。遺伝から、神経生理学、神経解剖学、向精神薬の作用機序など、臨床心理士および公認心理師として学ぶべき項目を扱う。また，神経心理学に関連した臨床心理士および公認心理師の実践についても触れる。4日目の演習では受講生にも積極的に講義に参加してもらい，ディスカッション等を行う。一部に文献講読・発表を含む。授業は対面で行う。 1日目 第1回 オリエンテーション：遺伝から行動まで 第2回 遺伝子と分子（１）：遺伝子とタンパク質 第3回 遺伝と分子（２）：精神疾患と遺伝 2日目 第4回 神経細胞と脳組織（１）：神経生理学の基礎 第5回 神経細胞と脳組織（２）：神経解剖学の基礎 第6回 神経細胞と脳組織（３）：向精神薬の作用機序 3日目 第7回 精神疾患への神経科学的アプローチ 第8回 精神疾患の生物学的基礎の伝え方：どうしたらスティグマを減らせるのか

授業計画	4日目 第9回 演習（１）：精神疾患に関する生物学的知見を説明してみよう 第10回 演習（２）：精神疾患に関する生物学的知見を説明してみよう
履修条件	心理臨床コースの学生に限る。
成績評価方法	１～３日目の講義後には、確認テスト（75％）を課し、当日の授業内でフィードバックを行う。確認テストには、講義内で取り上げた重要な概念やキーワードを中心に出题する。4日目の演習（25％）については、発表内容についてグループごとに評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	１～３日目は講義後に確認テストを課し、4日目の演習では、英語論文等の内容をもとに議論を行うため、与えられたテーマに基づいた英語論文等を読み、準備することが求められる。 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	manabaを通じて資料を配布する。コースニュースを見られるようにしておくこと。
オフィスアワー等（連絡先含む）	授業内容に関して質問等がある場合は、以下のメールアドレスまでメール、またはTeamsのチャットで連絡すること。 nakata.mariko.ft@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	「教育における生成AI活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	遺伝子，分子生物学，神経解剖学，神経生理学，精神薬理学，うつ，統合失調症，双極症，神経発達症，高次脳機能障害

授業科目名	心理療法特講
科目番号	OATB127
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地
授業概要	ブレイセラピーやペアレントトレーニングなど、子どもと保護者を対象とした心理的支援法と自律訓練法やCBT等、青年・成人を対象とした特定の心理療法について、理論と実際を学ぶ。
備考	2025年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 知の活用力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・チームワーク力 ・専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力・心理学的問題解決力・心理臨床実践力・心理学的情報発信力・多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	様々な心理療法に関する基本的な理論について理解する。 いくつかの心理療法を体験し，臨床現場で実践する準備を行う。 各心理療法に関するエビデンスについて理解する。
授業計画	第1回：自律訓練法の理論 第2回：自律訓練法の実際 第3回：動機づけ面接 第4回：行動活性化 第5回：Process-Based Therapy 第6回：遊戯療法 第7回：いじめの理解と対応 第8回：子どもの攻撃行動の基礎研究と臨床実践—学際的アプローチに向けて— 第9回：エクスポージャー/認知再構成法 第10回：自律訓練法の振り返りとまとめ
履修条件	受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。
成績評価方法	期末レポート（100％）を課すので，60％をとること。 なお、A+～C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。 レポート課題については、翌週以降の授業の中で解説・講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。 ホームワーク等が課された場合は，実施し，後日感想を報告できるようにしておくこと。 以上について，1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば，教員から連絡をする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	各教員に個別に確認をすること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意	各心理療法に触れるだけでなく，実践できるように，理論を理解するとともに，実践練習やホームワークに励むこと。

点等)	教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	心理療法, 自律訓練法, 遊戯療法, 認知行動療法, エクスポージャー, 動機づけ面接, 認知再構成法, Process-Based Therapy

授業科目名	心理療法特講
科目番号	OATB128
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	浅野 憲一, 濱口 佳和, 杉江 征, 松田 侑子, 慶野 遥香
授業概要	心理療法特講 とは異なる心理療法に関する最新の理論や実践方法について学ぶ。
備考	授業実施日については別途連絡する。 西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、心理臨床実践力
授業の到達目標（学修成果）	様々な心理療法に関する理論を理解することで、心理学的問題を発見し、人間理解力を高めることが出来ます。 また、心理療法の実践方法についても学ぶことで、心理学的問題解決力と心理臨床実践力が身につきます。
授業計画	第1回：心理療法を適切に提供するためのインテーク面接 第2回：心理療法を確かに提供するためのヘルピングスキル 第3回：箱庭療法の理論と実際 第4回：箱庭療法の実演 第5回：ペアレントトレーニングの理論と実際 第6回：ペアレントトレーニングの体験的学習・まとめ 第7回：自律訓練法の理論 第8回：自律訓練法の実際 第9回：心理療法における倫理 第10回：倫理的ジレンマの実際
履修条件	受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。
成績評価方法	期末レポート（100％）を課すので、60％をとること。 なお、A+～C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。レポートのフィードバックはmanaba等で行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。 ホームワーク等が課された場合は、実施し、後日感想を報告できるようにしておくこと。 以上、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば、教員から連絡をする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	各教員に個別にメールで連絡し、アポイントメントをとること。 浅野 憲一 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 松田 侑子 慶野 遥香 h.keino at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意	各心理療法に触れるだけでなく、実践できるように、理論を理解するとともに、実践練習やホームワークに励むこと。

点等)	教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	心理療法, インテーク面接、ヘルピングスキル、箱庭療法、ペアレントトレーニング、自律訓練法、倫理、倫理的ジレンマ

授業科目名	心理療法特講
科目番号	OATB129
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋C 集中
担当教員	菅原 大地, 水野 雅之, 生田目 光, 安 婷婷, 北原 祐理
授業概要	心理療法特講 とは異なる心理療法に関する最新の理論や実践方法について学ぶ。
備考	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 知の活用力・マネジメント能力・コミュニケーション能力・チームワーク力 ・専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力・心理学的問題解決力・心理臨床実践力・心理学的情報発信力・多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	最新の心理療法に関する基本的な理論について理解する。 臨床現場で実践するための臨床的技能を身につける。 各心理療法に関するエビデンスについて理解する。
授業計画	第1回：プロセス・ベースド・セラピー（解説） 第2回：プロセス・ベースド・セラピー（実践） 第3回：心理療法におけるセラピストの内省 第4回：転移・逆転移のセラピーへの活用 第5回：認知行動療法（概要） 第6回：認知行動療法（実践） 第7回：統合的心理療法（概説） 第8回：統合的心理療法（分類と実践） 第9回：愛着理論とメンタライゼーション 第10回：メンタライゼーション・ベースド・セラピー
履修条件	受講は心理臨床学サブプログラムの正規生に限定する。
成績評価方法	期末レポート（100%）を課すので、60%をとること。 なお、A+～C の評点は期末レポートの点数に基づいて行う。 レポート課題については、翌週以降の授業の中で解説・講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各教員が指定した教科書・参考書・資料等を事前に読んでおくこと。 ホームワーク等が課された場合は、実施し、後日感想を報告できるようにしておくこと。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	事前に目を通すべき教科書・参考書・資料等があれば、教員から連絡をする。
オフィスアワー等（連絡先含む）	各教員に個別に確認をすること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	各心理療法に触れるだけでなく、実践できるように、理論を理解するとともに、実践練習やホームワークに励むこと。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	心理療法, 科学者—実践家モデル, エビデンス

授業科目名	産業臨床心理学特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y)
科目番号	OATB131
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 金7,8
担当教員	大塚 泰正
授業概要	本講義では職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング，教育研修，職場復帰支援など）について解説する。単に講師が講義を行うだけでなく，受講生参加型の講義を行う。なお，職場のポジティブ・メンタルヘルスに関するグループまたは個人発表が課される。
備考	西暦奇数年度開講。 OATD306と同一。 オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型) 11/28のみオンデマンド配信となります（manabaによるリアクションペーパーの提出あり）。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	カウンセリング学位プログラム：知の活用力，マネージメント能力，コミュニケーション能力，チームワーク力，専門知識，倫理観 心理学学位プログラム：知の活用力，心理学的問題発見と人間理解力，心理学的問題解決力，心理学的情報発信力，多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	わが国における職場のメンタルヘルス対策の意義や推進方法についての知識や技能を獲得するとともに，心理専門職として社会の要請に応えられるような素養を身に付ける。また，人々がさらに健康にいきいきと働けるようになるために役立つポジティブ・メンタルヘルスの概要についても理解を深める。ポジティブ・メンタルヘルスについては教科書の中から各自1章を選び，個人またはグループ発表を行う。
授業計画	第1回 職場のメンタルヘルス対策の歴史・法規 第2回 精神障害の労災認定 第3回 職場のハラスメント対策 第4回 働く人のうつ・自殺対策 メランコリー型 第5回 働く人のうつ・自殺対策 ディスチミア型 第6回 職場復帰支援 休職開始から休職中のケア 第7回 職場復帰支援 職場復帰前から職場復帰後のケア 第8回 職場のストレスチェック 第9回 職場におけるメンタルヘルス教育研修 第10回 職場環境改善
履修条件	特になし。
成績評価方法	個人またはグループ発表（40％），リアクションペーパー（10％），最終レポート（50％）の内容に基づいて評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い，満点の60％をとることを合格の基準とする。なお，A+～Cの評点は，上記の合計得点に基づいて行う。最終レポートの講評については，manabaにアップする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業外に個人またはグループ発表の準備と最終レポート作成のために5時間程度必要になる。
教材・参考文献・配付資料等	関連文献の紹介は適宜行う。 1. 誠信書房，職場のポジティブ・メンタルヘルス

教材・参考文献・配付資料等	2. 誠信書房,職場のポジティブ・メンタルヘルス2 3. 誠信書房,職場のポジティブ・メンタルヘルス3 4. 誠信書房,職場のポジティブ・メンタルヘルス4
オフィスアワー等（連絡先含む）	担当教員の連絡先は以下のとおり。 訪問や相談等の際には、事前にご連絡ください。 otsuka at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	特になし。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。
キーワード	産業，メンタルヘルス，ストレス

授業科目名	学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Z)
科目番号	OATB132
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB 水1,2
担当教員	飯田 順子
授業概要	授業の目標は、次の4つである。 1学校心理学の基礎概念について理解する。 2学校心理学が扱う領域に含まれる様々なトピックについて理解を深める(不登校、発達障害など)。 3学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。 4心理教育的援助サービスの技法(アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション)を学ぶ。 子どもが会おう問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である学校心理学について、その理論や心理教育的援助サービスの実践について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高める。
備考	OATAB02と同一。 対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育目標1「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる 人材の養成」および3「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner(科学者— 臨床家)としての能力の養成」に関連
授業の到達目標(学修成果)	本講義は、学校心理学の基本的な枠組みを学び、国内外の研究知見を身に着け、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション等の援助技法を身に着けることを到達目標とする。 1学校心理学の基礎概念について理解する。 2不登校、いじめ、発達障害について理解を深め、支援方法について知識・技術を高める。 3学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。 4心理教育的援助サービスの技法(アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、心理教育)を学ぶ。 講義や演習におけるケース検討やグループディスカッション等を通して、心理学の知識を現場の課題に応用する力を高める(専門的知識を深め幅広く活躍できる人材の養成)とともに、様々な理論や先行研究を紹介することによって現場で実践した内容を研究として発信する力を高める(科学者・臨床家としての能力の養成)。
授業計画	学校心理学とは、子どもが会おう問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系です。この授業では、学校心理学の理論や心理教育的援助サービスの実践について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高めることを目指します。 第1回 オリエンテーション、学校心理学とは 第2回 日本における学校心理学の展開 第3回 学校心理学の基礎概念 第4回 不登校の理解と支援 第5回 いじめの理解と支援 第6回 発達障害の理解と支援

授業計画	第7回 心理教育的アセスメント 第8回 カウンセリング 第9回 コンサルテーション・チーム援助 第10回 学校心理士の倫理とまとめ
履修条件	
成績評価方法	毎回の授業内で課すショートレポート30%とレポート70%で評価する。ショートレポートに対するフィードバックは授業内で行う。レポートに対する講評解説をmanaにアップロードしてアナウンスする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（60%）、演習（40%） 指定した教科書の範囲を事前に読んでおくこと。授業の内容について復習し、授業で紹介した発展教材で学びを深めること。演習の課題を出すので、事前に準備を行うこと。
教材・参考文献・配付資料等	教科書 初回授業の中で指定します。 参考図書 石隈利紀 1999 『学校心理学-教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』誠信書房 水野治久・家近早苗・石隈利紀 2018 『チーム学校での効果的な援助:学校心理学の最前線』ナカニシヤ出版 石隈利紀・松本真理子・飯田順子 2013 『世界の学校心理学』明石書店 学校心理士資格認定委員会 2020 『学校心理学ガイドブック第4版』風間書房 日本学校心理学会(編集) 2016 『学校心理学ハンドブック―「チーム」学校の充実をめざして』教育出版
オフィスアワー等（連絡先含む）	事前にメールにてお問合せください。 j-iida at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	初回授業で授業の形式や内容・課題について説明しますので、授業の履修を考えている方は初回授業に出席してください。授業内で関連論文等を紹介しますので、授業外で読んでいただくことを期待します。 「教育における生成AI活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理教育的援助サービス、教師による援助サービス、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用、三段階の援助サービス、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、チーム援助

授業科目名	老年心理学特講
科目番号	OATB133
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 月7,8
担当教員	カウンセリング学位プログラム(博士前期課程)_担当教員
授業概要	人間の生涯的発達の中での特に中高年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」そして、これらの知見を踏まえた上で、問題を抱えた高齢者をどのように理解し、どのように対応していったらいいのか」などのテーマについて実習や事例検討も含めて考えていきたい。
備考	OATD302と同一。 対面 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・ 知の活用力 ・ マネージメント能力 ・ コミュニケーション能力 ・ チームワーク力 ・ 国際性 ・ 専門知識 ・ 倫理観
授業の到達目標（学修成果）	生涯発達の視点からみた老年期の心理的な特徴について学ぶ。老年期の一般的な心身の変化、日常生活に及ぼす影響について学ぶ。また、様々な高齢者に対する個別の理解、対応のあり方について学ぶ。
授業計画	第1回 生涯発達の視点から見た中―高年期 第2回 老いるということ1:身体機能の変化 第3回 老いるということ2:心理的適応 第4回 知的機能のエイジング1:加齢変化 第5回 知的機能のエイジング2:機能維持のための方法 第6回 高齢者に対する心理的理解と援助1:事例・在宅高齢者 第7回 高齢者に対する心理的理解と援助2:事例・認知症高齢者 第8回 高齢者理解のために実践例1 個人・家族 第9回 高齢者理解のための実践例2 福祉・医療 第10回 高齢者理解のための実践例3 産業他
履修条件	特になし。
成績評価方法	リアクションペーパーや感想文で評価する。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+～Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。リアクションペーパーや感想文については、翌週以降の授業の中で講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義中に配布された講義資料を用いての復習、第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。 その他、必要に応じて講義中に示す。
教材・参考文献・配付資料等	授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。参考書等は、授業時、適宜、紹介する。

教材・参考文献・配付資料等	1. 大川一郎 他 編,エピソードでつかむ老年心理学 ミネルヴァ書房 2011
オフィスアワー等（連絡先含む）	担当教員の連絡先は以下のとおり。 訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください
他の授業科目との関連	OATD301 生涯発達臨床心理学I
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。
キーワード	生涯発達、臨床心理学、高齢者、老年心理学

授業科目名	キャリアカウンセリング特講(産業・労働分野に関する理論と支援の展開X)
科目番号	OATB134
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 土4,5
担当教員	尾野 裕美
授業概要	キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。
備考	OATD308と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・ 知の活用力 ・ マネージメント能力 ・ コミュニケーション能力 ・ チームワーク力 ・ 専門知識 ・ 倫理観
授業の到達目標（学修成果）	キャリアカウンセリングの基盤となるキャリアの諸理論やアプローチを習得し、クライアントの抱える問題や課題を多様な視点から考察し、実践に応用する力を身につける。
授業計画	初回授業日は、10月第2土曜日となりますので、ご注意ください。 第1回 キャリアの諸理論・アプローチの概説 第2回 キャリア・インタビュー 第3回 キャリア・インタビューの整理 第4回 キャリア発達 第5回 職業選択 第6回 意思決定 第7回 組織内キャリア発達 第8回 トランジション 第9回 キャリア・ストレス 第10回 総合討議
履修条件	特になし。
成績評価方法	担当課題に関するグループ発表（60%）、授業コメント（10%）、授業後ミニレポート（30%）にて評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+～Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義中に配布された講義資料を用いての復習、第1回講義時に示す参考図書・関連文献を用いての予習に取り組むこと。 その他、必要に応じて講義中に示す。
教材・参考文献・配付資料等	講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。 1. 渡辺三枝子編著 2018,「新版キャリアの心理学[第2版]」 ナカニシヤ出版
オフィスアワー等（連絡先含む）	訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。 担当教員の連絡先：ono.hiromi.gp@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞ	「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してく

むことや受講上の注意 点等)	ださい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	キャリア理論、生涯発達、実践への応用

授業科目名	非行・犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)
科目番号	OATB135
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB 火7,8
担当教員	原田 隆之
授業概要	非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。
備考	西暦偶数年度開講。 OATD311と同一。 対面 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・ 知の活用力 ・ マネージメント能力 ・ コミュニケーション能力 ・ 国際性 ・ 専門知識 ・ 倫理観
授業の到達目標（学修成果）	非行・犯罪を始めとする逸脱行動や組織内の問題行動に対するリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶ。これらを学ぶことによって、この分野における科学的な知の活用力を身に付けることができる。特に逸脱行動や問題行動に対するアセスメント、対処、予防についての知の活用力と組織内におけるエビデンスに基づくマネージメント能力やコミュニケーション能力を身に付けることができる。
授業計画	講義と履修生による課題発表によって授業を進める。 履修生は教科書を分担し、その内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。授業ではその発表を元に討論する。 第1回 犯罪・非行の概念と法的枠組み 第2回 犯罪非行理論 第3回 犯罪・非行心理学の基礎 第4回 犯罪・非行のリスク要因 第5回 各種犯罪(薬物犯罪) 第6回 各種犯罪(性犯罪) 第7回 犯罪・非行のアセスメント 第8回 犯罪・非行の治療 第9回 主な治療技法(動機づけ面接法) 第10回 主な治療技法(リラプス・プリベンション)
履修条件	特になし。
成績評価方法	講義内の課題（20％）、レポート（80％）に基づいて評価する。課題やレポートは各回の授業内で発表後にフィードバックを行う。いずれも到達目標に挙げた項目を踏まえて評価を行い、満点の60%をとることを合格の基準とする。なお、A+～Cの評点は、上記の合計得点に基づいて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	講義中に配布された講義資料を用いての復習，第1回講義時に示す関連文献・書籍を用いての予習に取り組むこと。

方法	その他，必要に応じて講義中に示す。
教材・参考文献・配付資料等	1. Bonta J & Andrews DA (原田隆之 訳), 犯罪行動の心理学 北大路書房(Bonta J & Andrews DA. The Psychology of Criminal Conduct, 6th edition. Routledge)
オフィスアワー等(連絡先含む)	担当教員の連絡先は以下のとおり。 訪問や相談等にあたり、事前に調整してください。 tkharada at human.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「教育における生成AI活のガイドライン(学向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	必要に応じて授業補助のためにTFやTAを導入することがある。
キーワード	犯罪、非行、エビデンスベースプラクティス、リスクファクター、セントラルエイト、リスクアセスメント、処遇、認知行動療法、動機づけ面接

授業科目名	反社会的行動の理解と心理的支援（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）
科目番号	OATB136
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春C夏季休業中 集中
担当教員	濱口 佳和
授業概要	非行・犯罪心理学の基礎理論と日本における司法・犯罪分野の心理的支援の実際について解説する
備考	西暦奇数年度開講。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	反社会的行動（攻撃性、非行、逸脱行動など）の定義と背景を理解する 発達、環境、精神医学的視点からの理解を深める 心理的支援や介入の実践的方法を学ぶ
授業計画	1回：オリエンテーション：本授業の目的と進め方 2回：反社会的行動とは何か 3回：発達段階と反社会的行動 4回：思春期における非行・逸脱行動 5回：家庭環境と反社会的行動
履修条件	心理臨床コースの学生に限る
成績評価方法	レポート 100% レポート課題については、翌週以降の授業の中で解説・講評を行う。確認テストについては、講評解説の動画（あるいは文書）を manaba, sharepoint等にアップロードしてアナウンスする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	関連論文や関連文献を読むこと。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする（本講義では90時間）。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	反社会的行動，非行，攻撃性，逸脱行動，犯罪心理学，加害者心理，被害者心理

授業科目名	産業メンタルヘルス特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）
科目番号	OATB137
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋C 集中
担当教員	浅野 憲一, 松田 侑子
授業概要	産業メンタルヘルスに関する心理的支援の実際について解説する
備考	オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床的实践力
授業の到達目標（学修成果）	産業・労働分野のメンタルヘルスに関わる理論を学ぶことで、産業・労働分野で生じやすい心理的な問題を同定し理解する力を身に着けます。さらに、産業・労働分野におけるメンタルヘルス支援の実践を学ぶことで、問題を解決するために必要な公認心理師としての実践力を養います。
授業計画	産業・労働分野におけるメンタルヘルスに関わる理論と実践を学び、公認心理師に必要な知識とスキルを身に着けるために以下の内容を学んでいきます。 第1回：オリエンテーション、産業・労働分野における心理師の役割 第2回：産業メンタルヘルスの実際（企業内相談室） 第3回：産業メンタルヘルスの実際（外部EAP機関） 第4回：産業・労働分野におけるキャリア支援 第5回：産業・労働分野におけるメンタルヘルス支援
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	第1回～第4回で課されるレポート課題（100％）。 第5回においてフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内で提示される参考資料を用いた予習と復習を行う。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	授業内で配布または紹介する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは特に定めていません。まずはメールで連絡をしてください。 浅野 憲一 松田 侑子
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	産業・労働分野、メンタルヘルス、公認心理師

授業科目名	臨床心理家族・地域援助特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理
科目番号	OATB141
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AC 金3,4
担当教員	杉江 征, 田附 あえか
授業概要	家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、および地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学び、演習等を通して心理臨床実践に活かす。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の活用力 3. コミュニケーション能力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的問題発見と人間理解力、2. 心理学的問題解決力、3. 心理学的情報発信力、4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	家族・集団・地域の諸問題についての基礎的知識および心理的援助法を身につける。 具体的には、家族についての専門的な理解の仕方や家族臨床に関する知見・スキル等を学びることによって、スーパーバイザーの適切な指導のもとで家族臨床の知見やスキルを活かした心理臨床面接を担当できるようになることを目標としています。 また、個別の心理支援ではなく、集団やコミュニティを対象とした心理支援について、教育・産業・医療・福祉・司法矯正等の各領域での実践について理解を深め、他種職種連携についての考え方を身につけることを目標としています。
授業計画	第1回 オリエンテーション：家族とは・家族の健康さとは(対面型) 家族発達理論(1) 家族の準備期(オンデマンド型) 第2回 家族発達理論(2) 子育て期～巣立ちの時期(オンデマンド型) 第3回 家族心理学の基礎理論：家族システム論(オンデマンド型) 家族臨床の基礎理論：事例から見る家族臨床の基礎概念(オンデマンド型) 第4回 家族臨床に必要なスキル(1)：家族臨床の技法(オンデマンド型/対面型) 第5回 家族臨床に必要なスキル(2)：家族面接におけるアセスメント(オンデマンド型/対面型) 家族支援の実際(1) 教育領域における家族支援の実際(オンデマンド型) 第6回 家族支援の実際(2) 児童福祉領域における家族支援の実際(対面型) 前半の学習の振り返りとフィードバック、理解度の評価 第7回 大学コミュニティにおける心理支援(対面型) 第8回 地域・ボランティア団体における心理支援(対面型) 第9回 産業・組織領域における心理支援(対面型) 第10回 各領域における心理支援プランの立案(対面型)

授業計画	後半の学習の振り返りとフィードバック、理解度の評価 * 2025年3月現在の予定では、 後半部分を、秋Aの金曜日の3・4限に4回 前半部分を、秋Cに 1月 9日（金）4コマ分 1月22日（木）4コマ分 1月23日（金）4コマ分 （適宜、オンデマンド授業も含まれます。） のスケジュールで実施します。 確定次第ご案内させていただきます。
履修条件	受講は心理臨床コースの学生に限る
成績評価方法	課題への取り組み《各テーマに関する理解度を評価》(70%)、授業への主体的なかわり方《各回のコメント・振り返り等を評価》(30%)をもとに全体的な評価を行う。全体の60%が合格の基準。なお、A+～Cの評点は全体合計に基づいて行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（50%）、演習（50%）。授業外においては、授業で扱うテーマ等について以下のような自主学習を求める。現代社会において心理臨床的援助を实践する上で、個人の心理内界や言動のみならず、家族・集団・地域をはじめとする環境への関心および関係性への着目は不可欠である。日常生活の中での自分と環境の関係性について考え、自己に対する理解を豊かにして欲しい。本授業は2単位のため、授業時間と予習復習などの授業外学修を含めて90時間の学修時間を求める。
教材・参考文献・配付資料等	1. 中釜洋子，野末武義，布柴靖枝，無藤清子（編）『家族心理学 第2版』 有斐閣ブックス，2019 参考文献 平木典子・中釜洋子・友田尋子編著『親密な人間関係のための臨床心理学——家族とつながり，愛し，ケアする力』金子書房，2011 他，その都度指示していく
オフィスアワー等（連絡先含む）	メールによる問い合わせ 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	主体的に参加し，講義や実習を通して，参加者と共に学ぶ姿勢を大事にしてほしい。 生成AIの利用については、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	家族、集団、地域社会、家族療法、コミュニティ支援、関係性、システム、エンパワメント

授業科目名	心理実践実習ⅠA
科目番号	OATB142
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田目 光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	年間を通じて行われる心理相談室及び子ども相談室の運営・管理業務実習、電話受付実習、インテーク実習(陪席)・各ケースの支援実習を通して、心理支援の基礎を学ぶ。随時グループ・スーパーにジョンや個別スーパービジョンを通して、臨床支援原則の理解、地域連携の実際について学ぶ。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	各相談室の個別ケースを通して心理支援の基礎を学び, 基本的な支援技術を身につける。
授業計画	相談室運営や管理業務, 電話受付を通して, 多職種連携や地域支援, 公認心理師としての職業倫理と法的義務について学ぶ。インテーク面接の実施やその陪席, 遊戯面接について実習する。面接前の事前指導および, 面接後の事後指導により, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得し, ニーズの把握及び支援計画について学ぶ。 第1回: 相談室運営の概要 第2回: 相談室の管理業務 第3回: 心理職の職業倫理 第4回: 情報管理・守秘義務 第5回: インテーク面接の概要 第6回: インテーク面接の陪席 第7回: インテーク面接の発表・カンファレンス実習 第8回: 遊戯面接の概要 第9回: 遊戯面接の陪席 第10回: 遊戯面接の発表・カンファレンス実習
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	相談室における活動 40% カンファレンスでの発表 30% カンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い, その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 以上について, 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない
オフィスアワー等(連	

絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	相談業務, 管理業務, 相談室運営, 多職種連携, 地域支援, インテーク面接, 遊戯面接, 観察, 陪席, 実習

授業科目名	心理実践実習IB
科目番号	OATB143
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菅原 大地, 杉江 征, 濱口 佳和, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田目 光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	医療機関等外部実習先の心理面接や心理検査実習、その他の実習、そして実習後のスーパービジョンを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶとともに、多職種との連携を実践的に学ぶ。その他相談機関の見学等実習を通して、心理援助職の役割や責務、支援原則など幅広い臨床実践について学ぶ。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	導入面接, 検査実施, 報告書作成をスーパービジョンを受けながら行い, クライアント情報を基に見立てる力を身につける。 多職種との連携を学び, チームでの支援をできるようになる。
授業計画	医療・福祉・教育・司法・矯正機関での実習を行う。実習を通して, 心理支援を要する者への知識及び技能を習得し, 心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画, 支援を要するものへのチームアプローチ, 多職種連携と地域支援, 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。 第1回: 医療領域における実習の事前学習 第2回: 医療領域における検査実習 第3回: 医療領域における検査報告書作成 第4回: 医療領域における実習の事前・事後学習 第5回: 福祉領域における実習 第6回: 福祉領域における実習の事前・事後学習 第7回: 教育領域における実習 第8回: 教育領域における実習の事前・事後学習 第9回: 司法・矯正領域における実習 第10回: 司法・矯正領域における実習の事前・事後学習
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	実習施設における活動 40% カンファレンスでの発表 30% カンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い, その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 以上について, 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない

オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加し，質問すること 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	多職種連携，医療，福祉，司法・矯正，チームアプローチ，地域支援，職業委倫理，法的義務

授業科目名	心理実践実習IIA
科目番号	OATB144
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 随時
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 菅原 大地, 生田目 光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	年間通じて行われる学内の心理相談室及び子ども相談室における個別ケースを担当する。心理相談室では主に青年・成人を対象とした面接実習を行い、子ども相談室では、子どもへの心理実践としては、プレイセラピー、行動療法、社会・情緒的教育の担当、行動観察、保護者面接陪席が、保護者には育児相談を行う。実習後に行われるグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して、心理支援の基礎・実践についての理解を深める。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	各相談室の個別ケースを通して心理支援の基礎を学び, 基本的な支援方法を身につける。
授業計画	相談室運営や管理業務, 電話受付を通して, 多職種連携や地域支援, 公認心理師としての職業倫理と法的義務について学ぶ。 第1回: 相談室運営 第2回: 相談室管理業務 第3回: 電話対応 第4回: 多職種連携と地域支援 第5回: 職業倫理 第6回: ケースの見立て 第7回: ケースの方針検討 第8回: ケースの担当 第9回: 面接後の振り返り 第10回: ケースの発表
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	相談室での活動 40% カンファレンスでの発表 30% カンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い, その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 以上について, 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない
オフィスアワー等(連	

絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的に参加し、質問すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	相談室運営, 管理業務, 電話受付, 多職種連携, 地域支援, 職業倫理, 法的義務, ケース

授業科目名	心理実践実習IIB
科目番号	OATB145
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菅原 大地, 杉江 征, 濱口 佳和, 浅野 憲一, 松田 侑子, 水野 雅之, 生田目 光, 糸井 千尋, 慶野 遥香, 北原 祐理
授業概要	医療相談機関等による実習を通して以下を学ぶ。1クライアント情報を基に見立て、導入面接、検査実施、報告書作成をスーパービジョンを受けながら行う。2受診陪席やデイケア実習などを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶ。3多職種連携の実際を学ぶ。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス 知の活用力, マネジメント能力, コミュニケーション能力, チームワーク力 2.専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力, 心理臨床の実践力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	導入面接, 検査実施, 報告書作成をスーパービジョンを受けながら行い, クライアント情報を基に見立てる力を身につける。 受診やカンファレンス陪席やその他の病院実習を通して、個別ケースの支援の実際を学び、多職種との連携しながら支援する方法を身につける。
授業計画	保健医療分野での実習を行う。実習を通して、心理支援を要する者への知識及び技能を習得し、心理支援を要する者へのニーズの把握及び支援計画、支援を要するものへのチームアプローチ、多職種連携と地域支援、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。 第1回：心理検査の事前学習 第2回：導入面接 第3回：心理検査の実施 第4回：報告書の作成 第5回：報告書の発表 第6回：報告書に基づいた見立ての検討 第7回：報告書の修正・提出 第8回：カンファレンス実習の事前学習 第9回：カンファレンス実習の参加 第10回：カンファレンス実習の事後学習
履修条件	履修は心理学学位プログラム(博士前期課程)の心理臨床学サブプログラムの正規生に限る
成績評価方法	実習施設における活動 40% カンファレンスでの発表 30% カンファレンスでの討論 30% 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に事前・事後学習に励む。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本講義では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない

オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	積極的に参加し，質問すること。 教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理検査，導入面接，所見作成，カンファレンス，チームアプローチ，多職種支援，職業倫理，法的義務